

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	熱中症予防対策事業 (高齢者)	重点評価 区分	重点	担当部	福祉部
				担当課	高齢者支援課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成23年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	高齢者		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施 内容、手段、過去 の改善実績等)	<p>1 一時涼み所の設置</p> <p>【事業概要】 外出時に立ち寄ることができる一時涼み所を、総合庁舎や地区センターなどの公共施設をはじめ、区内の民間事業所に設置し、高齢者の熱中症を予防する。</p> <p>【設置場所】 公共施設 総合庁舎、地区センター、憩い交流館等 5 8 か所 民間事業所 美容院、理髪店、福祉施設等 1 2 か所（公募） *平成25年度の民間事業所は公募</p> <p>【実施期間】 平成25年6月17日（月）～9月27日（金） *健康プラザかつしか、憩い交流館（4館）にウォーターサーバーを設置（レンタル） *一時涼み所を設置する民間事業所にはのぼり旗、竿、台を貸与</p> <p>2 熱中症ハイリスク高齢者への注意喚起 要介護3以上の認定を受けているが介護サービスを受けていない65歳以上の高齢者に対して、熱中症予防のリーフレットを配布し、注意喚起を行う。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策 番号	施策	0101	地域ぐるみの健康づくりを展開し、区民の健康づくりを支援します
事務事業目的	気温が高くなる期間に一時涼み所を開設し、熱中症に対する注意を喚起し、高齢者の熱中症を予防する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
一時涼み所 設置か所数	設置か所を集計	か所	目標	—	58	58
			実績	—	58	70
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
一時涼み所 設置か所数	設置か所を集計	か所	目標	—	58	58
			実績	—	58	70
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	973	164
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	1,763	2,589
支出	直接事業費 (b)	千円	1,946	413
	需用費	千円	856	362
	委託料	千円	899	0
	使用料及び賃借料	千円	14	51
	備品購入費	千円	177	0
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	790
	人件費	千円	790	2,340
		人	0.10	0.30
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	80	285
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	80	285
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	2,816	3,038

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		一時涼み所開設数	
実績数値 (g)	か所	58	70
単位あたり区単コスト (a/g)	円	30,397	36,986
単位あたりコスト (f/g)	円	48,552	43,400

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	熱中症予防対策事業（高齢者）	担当部	福祉部
		担当課	高齢者支援課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>一時涼み所の設置は4年目を迎え、区民の認知度も徐々に上がってきている。 23・24年度は、区内公共施設のみ58か所での実施であったが、25年度は公募により、12か所の民間事業所から協力を得られ、70か所での実施となった。 26年度は、協力店がさらに増えて80か所となり、公共施設との合計では137か所となっている。</p>	
今後の方向性	改善	民間事業所の協力を得て、一時涼み所を増設していく。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
一時涼み所設置か所数	設置か所を集計	か所	目標	137	143	148
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
高齢者の熱中症を予防するため、公共施設のほか身近な民間事業所に一時涼み所を設置する	おもてなし	民間事業所設置か所数の増	か所	目標	80	85	90
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	薬物乱用防止啓発	重点評価区分	重点	担当部	保健所
				担当課	地域保健課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和59年度	根拠法令	東京都薬物乱用防止条例
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>麻薬・覚せい剤等薬物の乱用防止に関する区民向け啓発活動を、薬物乱用防止指導員と連携して実施。</p> <p>①地区協議会定例会の開催（年4～5回）</p> <p>②地区協議会研修会の開催（年1回）</p> <p>③区内中学校から薬物乱用防止ポスター・標語の作品募集（年1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀作品等は同協議会区民大会、社会を明るくする運動総会会場等で展示啓発活動を実施 ・最優秀作品については、デザイン等を使用し啓発用グッズを作成し、イベント等で配布、区民への啓発 ・最優秀作品については、それぞれ東京都薬物乱用防止推進協議会へ推薦 <p>④薬物乱用防止葛飾区民大会の開催（年1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 ・ポスター・標語の入賞者の表彰 ・ポスター・標語入賞作品展示 <p>⑤その他の啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内小中学校で「薬物乱用防止教室」の実施 ・子どもまつり、産業フェア、東京拘置所矯正展、各地区まつり等のイベントでチラシ・ティッシュペーパー等を配布 ・区広報紙、FMかつしか、メールマガジン等で広報など <p>⑥薬剤師会と連携し、薬物相談窓口を設置、区民の相談に応じている</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0101	地域ぐるみの健康づくりを展開し、区民の健康づくりを支援します
事務事業目的	<p>①薬物の恐ろしさ・危険性などイベント・薬物乱用防止教室等を通じ、区民に周知・PR活動をしていく。</p> <p>②「薬物乱用防止推進葛飾区地区協議会」の活動を活発にしていく。</p>		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
葛飾区民大会参加人数	出席者名簿	人	目標	120	120	120
			実績	76	63	62
薬物乱用防止ポスター・標語応募数	ポスター応募者+標語の応募者	件	目標	1,000	1,000	1,000
			実績	1,257	570	271

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
子どもまつり等の街頭啓発活動数	活動報告	回	目標	8	8	8
			実績	8	10	6
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	1,935	1,895	
支出	直接事業費 (b)	千円	355	335	
	消耗品費	千円	337	322	
	通信運搬費	千円	18	13	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	1,580	1,560
		人件費	千円	1,580	1,560
		人	0.20	0.20	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	160	181	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	160	181	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	2,095	2,076	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		各参加者数（区民大会、定例会・研修会）	
実績数値 (g)		153	172
単位あたり区単コスト (a/g)	円	12,647	11,017
単位あたりコスト (f/g)	円	13,693	12,070

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	薬物乱用防止啓発	担当部	保健所
		担当課	地域保健課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>○イベントに参加する区民からは、興味・関心が寄せられることが多く、関心の高さが伺え「危険ドラッグ」を含む薬物乱用に対する正しい知識を身につけるきっかけになっている。</p> <p>○平成24・25年度とポスター・標語応募点数が減少している。</p>	
今後の方向性	改善	<p>近年、危険ドラッグの乱用等、薬物乱用が社会問題となっており、現状通り、自治町会・青少年委員・民生委員などからの代表者で協議会を組織し、中心となって活動を行っていく。薬物乱用の防止を訴えていくことは今後とも必要な事業であり継続していく。</p> <p>平成26年度は、児童生徒へ「薬物の危険性」を知る機会としてほしいため、薬物乱用防止ポスター・標語の作品募集の各学校への依頼を昨年度より早期とし、夏休みの自由課題から授業での取組みが可能な時期に通知した。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
葛飾区民大会参加人数	出席者名簿	人	目標	120	90	90
薬物乱用防止ポスター・標語応募件数	ポスター応募者数+標語応募者数	件	目標	600	300	300

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
こどもまつり等の街頭啓発活動	おもてなし	活動回数	回	目標	8	8	8
広報紙、HP、FMかつしか等を利用し、薬乱指導員と協力し薬乱啓発活動を活発にする。	プロセス 人づくり	活動回数	回	目標	—	4	4
ポスター・標語の入賞作品を、区民ホールへ掲示・広報紙へ掲載等を実施する。	プロセス	掲示回数	回	目標	—	1	1
ポスター・標語の最優秀作品をポケットティッシュ台紙に印刷し区内中学校に配布、薬乱啓発活動につなげる	プロセス	活動回数	—	目標	—	1	1

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	受動喫煙防止普及啓発事業	重点評価区分	重点	担当部	保健所
				担当課	健康推進課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成21年度	根拠法令	健康増進法第25条
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 受動喫煙により、肺がんをはじめとするがんや虚血性心疾患、脳虚血、呼吸器疾患など、多くの疾患の原因となることが知られている。そこで、受動喫煙防止対策を推進し、区民を受動喫煙の害から守ることを目的に、禁煙・分煙を推進している飲食店、理・美容所、公衆浴場を対象に、禁煙分煙推進店登録制度を実施している。</p> <p>また、たばこの健康影響についての十分な知識の普及啓発を行ない、受動喫煙防止を推進する。</p> <p>【実施内容】 全面禁煙・完全分煙・時間禁煙の3つの登録要件から店側の申請により、調査及び審査の結果、登録された店舗に対して、受動喫煙を受けずに安心して利用できる店であることがわかりやすいように、店頭にはるステッカーの配布や区のホームページを通じて、店舗の情報提供を行っている。</p> <p>広報などでたばこの健康影響について普及啓発する。</p> <p>【過去の改善実績】 平成21年度は飲食店のみを対象としていたが、平成22年度からは理・美容所、公衆浴場を対象を拡大した。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0101	地域ぐるみの健康づくりを展開し、区民の健康づくりを支援します
事務事業目的	健康増進法第25条で示されている多数の者が利用する施設について、受動喫煙防止対策を行う。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
乳幼児家庭の喫煙率	4か月時健診時調査	%	目標	40.0	40.0	38.0
			実績	39.4	40.2	39.4
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
広報回数	広報かつしか等への掲載回数	回	目標	5	6	6
			実績	4	3	3
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	1	1	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	316	859	
支出	直接事業費 (b)	千円	1	2	
	通信運搬費	千円	1	2	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	316	858
		人件費	千円	316	858
		人	0.04	0.11	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	32	105	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	32	105	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	349	965	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		禁煙・分煙推進店舗登録制度の登録店数	
実績数値 (g)	店	36	40
単位あたり区単コスト (a/g)	円	8,778	21,475
単位あたりコスト (f/g)	円	9,694	24,125

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	受動喫煙防止普及啓発事業	担当部	保健所
		担当課	健康推進課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>栄養担当係において登録している「食育サポート店」に「禁煙・分煙推進店」登録を呼び掛け、平成25年度は4店舗の登録増となった。 世界禁煙デーに合わせて、「たばこの健康影響についての知識の普及」を行なった。ポスター掲示依頼箇所を前年度より32か所増加し、さらに新規で区民ホールにて電光掲示板に掲載した。</p>	
今後の方向性	改善	<p>たばこの健康影響についての十分な知識の普及を行ないながら「禁煙・分煙推進店登録制度」を継続していく。年に1度、「禁煙・分煙推進店」を巡回し、飲食店廃業状況など確認すると同時に近隣の飲食店に個別に登録紹介を試みる。 区立の小学校において実施している「喫煙防止教室」では、将来を支える若年層に対する健康教育を継続し、さらに、受動喫煙の危険性を伝えるチラシを家族用に配布し、家庭での受動喫煙の減少につなげる。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
乳幼児家庭の喫煙率	4か月児健診時調査	%	目標	35.2	32.7	30.2
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
健康への悪影響について理解を深めるため、広報活動を強化する。	プロセス	広報回数	回	目標	6	6	6
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	がん検診PR事業	重点評価区分	重点	担当部	保健所
				担当課	健康推進課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成23年度	根拠法令	健康増進法・がん対策基本法
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 がん検診の受診率向上のため様々な方法によりがん検診に関する普及啓発を行っている。</p> <p>【実施内容】</p> <p>① 広報への繰り返しの掲載、ホームページ・FMの活用を行う。その他区民が目にする印刷物（受診票送付用封筒）などにごがん検診受診勧奨のキャッチコピーを入れる。</p> <p>② 各種健康診査と同時のごがん検診受診体制（健診通知に案内同封）、女性特有のごがん検診及び大腸がん検診の無料クーポン送付など、個別送付によるPRを行っている。</p> <p>③ PTAへのパンフレット配付を行い、がん検診対象初期年齢層へのPRを行う。</p> <p>④ はなしょうぶコールを活用し電話での受付を実施している。</p> <p>⑤ 保健師との連携により、乳がんの自己触診の方法など、がん対策の周知を行う。</p> <p>【過去の改善実績】</p> <p>① 唯一予防できる子宮がんを若い女性に知ってもらい、検診とワクチンの2本立てで子宮頸がん撲滅を目指す「Whats 子宮頸がん？」というパンフレットを作成し、検診及びワクチンの受診向上を図った。</p> <p>② 平成22年度においては、「あと20年生きられたのに…がんによる早すぎる死を受け入れられますか。」という斬新なキャッチコピーを用いたパンフレットの全戸配布を行い、がん検診への認識を広めた。</p> <p>③ がん検診の検査の様子がイラストで理解できるパンフレットを新たに作成し、健康フェア等で配布した。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0103	生活習慣病について知ること、区民自らが健康管理できるようにします
事務事業目的	より多くの区民が受診するよう促し、がんり患者の早期発見及び早期治療に結びつける。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
受診率（胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺）受診率の平均	—	%	目標	20.6	21.1	18.6
			実績	17.6	18.2	17.9
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
がん検診のべ受診者数	—	人	目標	150,095	153,063	148,682
			実績	126,535	131,962	141,527
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	2,066	1,370	
支出	直接事業費 (b)	千円	565	278	
	消耗品費	千円	245	0	
	印刷製本費	千円	320	278	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	1,501	1,092
		人件費	千円	1,501	1,092
		人	0.19	0.14	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	152	133	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	152	133	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	2,218	1,503	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		がん検診のべ受診者数	
実績数値 (g)	人	131,962	141,527
単位あたり区単コスト (a/g)	円	16	10
単位あたりコスト (f/g)	円	17	11

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	がん検診PR事業	担当部	保健所
		担当課	健康推進課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	乳・子宮がん検診に加え、大腸がん検診についても無料クーポン送付を行うなど個別勧奨を実施したことや、電話での受診申込みが可能になったこと等により、受診者数は着実に増加している。	
今後の方向性	改善	個別勧奨、未受診者勧奨のほか、従来のPR以外にも例えば町会回覧によるPRなどを実施する。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
受診率（胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺）受診率の平均	—	%	目標	19.5	20.5	21.4
延べ受診者数	—	人	目標	154,776	161,555	168,334

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
がん検診の大切さの理解を深め、受診者数を増やす。	おもてなし	広報記事掲載のべ回数及びエフエム放送回数	回	目標	77	77	77
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	食育月間等普及啓発	重点評価区分	重点	担当部	保健所
				担当課	健康推進課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成21年度	根拠法令	食育基本法
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者・NPO団体との協働
対象者	全区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【概要】 区民に対して、食育月間や各種イベントなどの機会をとらえて、食育に関する様々な情報を発信し、理解と取り組みを促すことを目的に実施する。</p> <p>【活動内容等】 ①6月の食育月間に、区民ホールや中央図書館などでパネル等の展示を行うとともに、広報紙やかつしかFMで食育に関する事業や月間の取り組み等を紹介する。 ②産業フェア、消費生活展などのイベントに参加して、パネル等の展示やクイズを実施する。 ③ホームページで食育情報を発信する。</p> <p>【過去の改善実績】 産業フェアでは、平成23年度から金曜日と土曜・日曜日で来場者に応じて、内容を変えた展示やクイズを実施している。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0104	食育を通じて、心身ともに健康で豊かに生活できるようにします
事務事業目的	区民が食育を理解し、取り組むために必要な情報を、様々な機会や手段で提供する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
イベント参加者数	—	人	目標	5,500	5,750	6,000
			実績	4,368	5,295	7,169
ホームページ閲覧数	—	件	目標	3,000	3,300	3,600
			実績	4,520	8,396	13,188

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
パネル展等実施回数	—	回	目標	12	12	12
			実績	11	14	15
食育コンテンツ更新回数	—	回	目標	12	15	15
			実績	29	20	27
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	150	196	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	6,058	8,213	
支出	直接事業費 (b)	千円	336	531	
	消耗品費	千円	188	142	
	印刷製本費	千円	137	389	
	通信運搬費	千円	11	0	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	5,372	7,878
		人件費	千円	5,372	7,878
		人	0.68	1.01	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	500	0	
	調整額 (e)	千円	544	960	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	544	960	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	6,752	9,369	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		イベント参加者数	
実績数値 (g)	人	5,295	7,169
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,144	1,146
単位あたりコスト (f/g)	円	1,275	1,307

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	食育月間等普及啓発	担当部	保健所
		担当課	健康推進課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>平成20年3月の葛飾区食育推進計画の策定を受けて、平成21年度より実施。健康・食育・糖尿病フェアや産業フェア、地区センターまつりなどのイベントで葛飾区食育推進計画と区の取り組みの紹介を中心に食育について普及啓発を図った。来場者の多い区民ホールでの展示やイベント等での取り組みにより効率的に、多くの区民にPRすることができた。また、イベントでスタンプラリーや参加者の年齢別にクイズを工夫して実施するなど効果的な働きかけとなった。</p> <p>また、区のホームページで情報を発信した。</p>	
今後の方向性	改善	<p>区民の食育への取り組みを促すために、多くの機会に様々な情報を様々な手段で提供することが必要である。そのために、現状の取り組みに加えて、地域で食育に取り組んでいる団体等から構成される葛飾区食育推進ネットワークと協働した、地域に根ざした情報の発信に努めることと、ホームページの更なる充実を図ることで、より効果的に、食育について普及・啓発に取り組んでいく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
イベント参加者数	展示を見て、クイズ、アンケートへ回答した人数	人	目標	7,000	7,000	7,000
ホームページ閲覧数	食育についてのホームページへの年間のアクセス総件数	件	目標	13,000	14,000	14,000

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
より多くの区民へ、様々な機会に、様々な情報の提供を図る。	おもてなし	食育月間とイベントでのパネル展示回数	回	目標	15	15	15
ホームページの充実を図り、情報量を増やす。	おもてなし	食育コンテンツ更新回数	回	目標	33	39	39
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	地域医療保健衛生従事者表彰事務	重点評価区分	重点	担当部	保健所
				担当課	地域保健課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和59年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者との協働
対象者	区内の地域医療・保健衛生業務従事者		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>功績があった区内の地域医療・保健衛生業務従事者の表彰を行う。表彰は、区が主催するものと、医師会及び歯科医師会等の関係機関が実施する表彰を区が後援して、併せて表彰するものがある。</p> <p>【区主催による表彰】</p> <p>①地域医療功労者表彰（内規該当者6名程度、年1回実施）</p> <p>【関係機関が実施する表彰を区が後援して併せて表彰】</p> <p>②救急医療従事者表彰（葛飾救急業務連絡協議会主催、20名程度、年1回実施）</p> <p>②地域医療功労者表彰・永年勤続職員表彰（葛飾区医師会主催、医師20名・職員250名程度、年1回実施）</p> <p>③永年功労者表彰（葛飾区歯科医師会主催「先輩に感謝する会」、歯科医師4～7名程度、年1回実施）。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0201	医療機関との連携を図り、必要な医療を提供できるようにします
事務事業目的	医療従事者が、地域医療に貢献する意識を高め、区民の保健衛生・医療機会の確保の向上に尽力する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
表彰者数	区主催表彰受賞者数+関係機関が実施する表彰受賞者数	人	目標	300	300	300
			実績	341	308	301
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
表彰式開催回数	区主催表彰式+関係機関主催表彰式	回	目標	4	4	4
			実績	4	4	4
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	656	686	
支出	直接事業費 (b)	千円	261	296	
	消耗品費	千円	113	151	
	印刷製本費	千円	68	65	
	負担金	千円	80	80	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	395	390
		人件費	千円	395	390
		人	0.05	0.05	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	40	48	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	40	48	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	696	734	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		対象者数（表彰者）	
実績数値 (g)	人	308	301
単位あたり区単コスト (a/g)	円	2,130	2,279
単位あたりコスト (f/g)	円	2,260	2,439

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	地域医療保健衛生従事者表彰事務	担当部	保健所
		担当課	地域保健課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>本事業は、功績があった区内の地域医療・保健衛生業務従事者の表彰をすることで、医療従事者が、地域医療に貢献する意識を高め、区民の保健衛生・医療機会の確保の向上に尽力するために行っているもの。 区が主催(1回)と、医師会・歯科医師会等の関係機関が実施する表彰(3回)を区が後援して、併せて表彰するものがある。</p>	
今後の方向性	改善	
	継続	医療従事者が、地域医療に貢献する意識を高め、区民の保健衛生・医療機会の確保の向上を目指す。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
表彰者数	区主催表彰受賞者数+関係機関が実施する表彰受賞者数	人	目標	300	300	300
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
医療従事者が、地域医療に貢献する意識の向上	啓発	表彰式開催回数	回	目標	4	4	4
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	国民健康保険事業趣旨普及	重点評価区分	重点	担当部	福祉部
				担当課	国保年金課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和34年度	根拠法令	国民健康保険法82条
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	葛飾区国民健康保険被保険者		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 印刷物や広報紙等を活用して、国民健康保険の制度概要や給付内容、保険料計算方法、各種届出、及び健康増進に関する情報を被保険者に提供する。</p> <p>【活動内容】 ①制度の概要や給付内容、各種届出等を詳しく説明する小冊子「国保のしおり（約60頁）」を新規加入者、希望者に国保年金課・区民事務所等の窓口で配布する。 ②保険料決定通知書の見方や保険料の計算・納付方法を案内するチラシ「国保だより」を6月発送の保険料決定通知に同封し、被保険者全世帯に配布する。 ③生活習慣病対策等の情報を記載した「保健パンフレット」を国保年金課・区民事務所等の窓口で引き続き配布する。また平成24年度から、それまでの「保健パンフレット」にかえて、新たに生活習慣病に関する知識と特定保健指導の必要性を普及啓発するチラシを印刷し、特定保健指導対象者への利用勧奨通知に同封している。 ④広報かつしか、区ホームページ、かつしかFM等で届出等に関する情報を発信する。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0203	医療保険を安定的に運営するとともに、区民が必要な医療を受けられるようにします
事務事業目的	国民健康保険制度と事業内容を理解してもらうことで、国民健康保険事業の円滑な運営を推進する。また、健康づくりについて普及啓発を行うことにより、医療と健康の問題に対する関心と理解を深める。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
広報回数（広報かつしか掲載数＋かつしかFM放送数）	広報かつしか記事掲出回数と、かつしかインフォメーション延べ放送回数	回	目標	60	100	100
			実績	94	72	89
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
国保だよりの配布部数	—	部	目標	95,000	95,000	95,000
			実績	95,000	95,000	95,000
国保のしおりの配布部数	—	部	目標	20,000	22,000	22,000
			実績	20,000	21,000	21,000
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	2,064	2,111	
支出	直接事業費 (b)	千円	1,274	1,331	
	消耗品費	千円	0	0	
	印刷製本費	千円	1,274	1,331	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	790	780
		人件費	千円	790	780
		人	0.10	0.10	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	80	95	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	80	95	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	2,144	2,206	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		配布部数（国保だよりと国保のしおりの合計配布部数）	
実績数値 (g)	部	116,000	116,000
単位あたり区単コスト (a/g)	円	18	18
単位あたりコスト (f/g)	円	18	19

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	国民健康保険事業趣旨普及	担当部	福祉部
		担当課	国保年金課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>保険料決定通知書に同封する「国保だより」及び「国保のしおり」の記載内容については、毎年見直し、より分かりやすい誌面構成とするよう改善している。国保被保険者数は、後期高齢者医療制度に移行する被保険者数の増加等により減少しているが、加入世帯数に大きな増減はなく、配布部数は横ばい傾向である。</p> <p>保健パンフレットについては、日本人の死亡原因の約3分の1を占める生活習慣病関連のパンフレットを配布し、健康に関する知識の普及に努めた。また平成24年度から、それまでの「保健パンフレット」にかえて、新たに生活習慣病に関する知識と特定保健指導の必要性を普及啓発するチラシを印刷し、特定保健指導対象者への利用勧奨通知に同封している。これにより、特定保健指導の利用率向上に努めている。</p>		
今後の方向性	改善		
	継続	<p>特定保健指導の利用については、対象者個人に対する働きかけが効果的であることから、糖尿病・高血圧症・脂質異常症など、各対象者の症状に合わせた内容の生活習慣病啓発チラシを作成していく。</p>	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
広報回数（広報かつしか掲載数+かつしかFM放送数）	広報かつしか記事掲出回数と、かつしかインフォメーション延べ放送回数	回	目標	100	100	100
特定保健指導利用率	利用者数/対象者数×100	%	目標	36	44	44

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
保険料の計算方法や支払方法等を被保険者に理解してもらう。	おもてなし	国保だよりの配布部数	部	目標	95,000	95,000	95,000
制度や給付内容、各種届出方法等を被保険者に理解してもらう。	おもてなし	国保のしおりの配布部数	部	目標	22,000	22,000	22,000
特定保健指導利用勧奨通知の送付	おもてなし	発送数	通	目標	6,100	6,200	6,300
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	エイズ・性感染症対策	重点評価区分	重点	担当部	保健所
				担当課	保健予防課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和63年度HIV検査、平成12年度性感染症検査	根拠法令	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	区民等		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【概要】エイズのまん延を予防し、正しい知識の普及啓発のために性感染症予防相談、抗体検査を実施している。また療養支援ネットワークの確立を図りエイズ患者及びHIV感染者を総合的に支援していくためにエイズ連携会議を開催している。</p> <p>【手段】①エイズ・性感染症に関する情報を広報などで区民に提供し、感染予防の普及啓発を行う。また、若年者の感染予防のため、学校保健と連携し健康教育を協働する。区内の大学の学園祭にブースを出展し、ティッシュ配布、保健師による相談業務を実施している。②HIV検査（即日検査）や性感染症の検査を実施し、受検者へ予防のための正しい知識の普及と、感染者の早期発見と受診勧奨、治療の徹底を指導する。③エイズ連携会議を開催し、保健、医療、福祉などの関係機関が、エイズ対策の推進に関する情報交換をすることにより、ネットワークの確立を図り患者の療養支援及び感染拡大を予防する。</p> <p>【実績等】HIV検査は平成19年度の途中より即日検査を導入し、判定保留の結果の方に確認検査を実施する方法へ変更した。平成20年度から通年で即日検査となり、受検者数が増加した。しかし、21年度に新型インフルエンザが発生し、不急不要の用事は避けるよう広報された影響から、21年度の実績は大幅に減少した。その後も減少傾向が続いていたが、平成25年度はマスコミ等の報道が後押しとなり、受検者が増加した。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0301	感染症の発生や拡大を抑制します
事務事業目的	エイズや性感染症について正しい知識の普及啓発をし、感染予防と不安の軽減を図る。検査陽性者を早期発見し、適切な医療につなげ治療を勧める。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
HIV陽性者の医療機関紹介率	（当年紹介者数÷当年HIV陽性者数）×100	%	目標	100	100	100
			実績	67	該当なし	100
HIV即日検査者増加率	〔当年検査者数÷平成21年度検査者(508人)数〕×100	%	目標	100	100	100
			実績	88	86	90

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
エイズ・性感染症検査件数と相談件数	HIV検査受検者数、STI結果聞きに来た人数、電話相談件数	件	目標	700	700	700
			実績	616	633	649
普及啓発健康教育参加者数	受講者数	人	目標	1,370	1,370	1,370
			実績	1,059	1,061	1,391
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	787	1,167
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	10,418	8,461
支出	直接事業費 (b)	千円	1,076	1,069
	消耗品費	千円	482	429
	印刷製本費	千円	93	84
	委託料	千円	501	556
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	9,596
	人件費	千円	9,596	7,448
		人	1.22	1.06
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	533	1,111
	調整額 (e)	千円	968	817
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	968	817
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	12,173	10,445

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		周知件数 (エイズ・性感染症検査件数+相談件数)	
実績数値 (g)	件	633	649
単位あたり区単コスト (a/g)	円	16,458	13,037
単位あたりコスト (f/g)	円	19,231	16,094

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	エイズ・性感染症対策	担当部	保健所
		担当課	保健予防課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>①学校保健との協働による、性感染症予防のための健康教育は、継続して実施されるようになったが、実施する学校が固定化しているため、実施していない学校へのPRなど、ひき続健康教育実施ための開拓が必要である。（25年度区立中学校24校中9校実施）②保健所の検査実施の周知を目的とした、エイズキャンペーンは平成23年度から区内の大学1か所で大学祭の際に実施している、今後も継続しさらに実施する機会を増やす必要がある。③区内外を問わず来所者があり、定員を超える受検希望者がある。検査のHIV陽性率は、横ばい状態である。④エイズ連携会議は、23区に先駆けて実施している。区内免疫機能障害手帳所持者は毎年約15、6名ずつ増え続け、25年度157名となっている。エイズ患者の高齢化とともに介護保険や合併症の問題、拠点医療機関受診の問題など課題が、連携会議において確認された。今後は、関係機関、関係団体と共に課題解決に向けた取り組みが必要である。</p>	
今後の方向性	改善	<p>①健康教育は、参加者により分かりやすいように、ロールプレイなどを取り入れさらに創意工夫を図る。 ②若者の受検者増のために、キャンペーン実施をする区内大学を増やすよう働きかける。また、今後検査周知にとどまらず、予防活動につながるような活動にしていく。また成人期の受検者増について普及啓発を図る。 ④エイズ連携会議は、実務者レベルの会議体の開催など、区内のエイズ患者の療養支援について具体的な支援の検討ができる仕組みづくりを検討する。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
HIV検査者増加率	$(\text{当年検査者数} \div \text{平成21年度検査者508人}) \times 100$	%	目標	100	100	100
HIV陽性者の医療機関受診率	$(\text{当年受診者数} \div \text{当年HIV陽性者数}) \times 100$	%	目標	100	100	100

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区内中・高校等で性感染症に関する普及啓発を行う	人づくり	普及啓発健康教育参加者数	人	目標	1,370	1,370	1,370
必要な人がエイズ・性感染症検査や相談が受けられるように検査・相談体制を整える	コスト	エイズ・性感染症検査件数と相談件数	件	目標	700	700	700
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	動物適正飼養推進	重点評価区分	重点	担当部	保健所
				担当課	生活衛生課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成18年度	根拠法令	動物の愛護及び管理に関する法律
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	動物の飼養者及び、その他全住民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	①捕獲犬・負傷動物の公示事務 ②動物に関する苦情・相談事務 ③動物飼養に関するチラシや啓発プレートの配付・設置事務 ④飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成事業		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0304	生活環境の衛生を維持します
事務事業目的	動物愛護意識の高揚及び生活環境の向上。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
苦情・相談件数（犬に関するもの）	—	件	目標	100	100	100
			実績	121	104	89
苦情・相談件数（猫に関するもの）	—	件	目標	250	250	250
			実績	202	221	214

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
普及啓発活動件数	実施件数	回	目標	1,400	1,450	1,500
			実績	1,320	1,410	1,420
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	605	614
	その他	千円	9,001	9,121
	一般財源 (a)	千円	6,538	8,745
支出	直接事業費 (b)	千円	1,652	2,099
	消耗品費	千円	317	399
	通信運搬	千円	27	38
	補助金	千円	1,308	1,662
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	15,800
	人件費	千円	15,800	15,600
		人	2.00	2.00
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	781
	調整額 (e)	千円	1,600	1,900
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	1,600	1,900
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	19,052	20,380

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		周知件数（普及啓発活動件数）	
実績数値 (g)	件	1,410	1,420
単位あたり区単コスト (a/g)	円	4,637	6,158
単位あたりコスト (f/g)	円	13,512	14,352

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	動物適正飼養推進	担当部	保健所
		担当課	生活衛生課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>動物の適正飼養については、マナープレートの設置や定期的に広報紙に注意を促す記事を掲載したり、ホームページ等で普及・啓発に努めているが、問題を根本的に解決するには、飼養者のモラルに負うところが大きく、十分な効果が現れていないのが現状である。これらの現状を改善するために適切な対応を行うことが必要である。</p>	
今後の方向性	改善	<p>犬や猫などの愛護動物に関する苦情・相談は少しずつ減ってはいるが、これからは問題のある飼い主に対して、直接訪問し動物の適正な飼養に関する指導及び意識の向上を図るとともに、積極的に地域住民の動物愛護に関する理解を求めていく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
苦情・相談件数（犬）	相談件数	件	目標	100	100	100
苦情・相談件数（猫）	相談件数	件	目標	250	250	250

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
飼い主へのマナーに関する指導や啓発を実施する。	おもてなし	啓発看板の設置及びチラシ等の配布	回	目標	1,600	1,740	1,750
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	異世代・地域交流事業	重点評価区分	重点	担当部	福祉部
				担当課	高齢者支援課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	—	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	55歳以上の区民・区民全般		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 地域の異世代間の交流を通じて相互の理解を深めるとともに、シニア世代が蓄積してきた知恵や知識の伝承・継承を図る。</p> <p>【活動内容】</p> <p>(1) 回想法を通じた若い世代との交流</p> <p>① 高校生（葛飾総合高校）・東京都済生会看護専門学校生との回想法による交流</p> <p>② シニアフェアでの回想法体験や回想展示による交流</p> <p>③ 「戦争体験と回想法」による交流</p> <p>(2) 囲碁将棋大会を通じた地域交流</p> <p>① シニア活動支援センターで毎年1回実施</p> <p>(3) NPO法人葛飾アクティブ・COMによる交流事業（委託）</p> <p>① 農産高校生と園芸や食品加工を通じた交流「シニア活き活き教室」</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0401	高齢者がサークル活動や就労の場を持ち、元気に生活できるようにします
事務事業目的	地域の異世代間の交流を通じて相互の理解を深めるとともに、シニア世代が蓄積してきた知恵や知識の伝承・継承を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
満足度	内容が良いと答えた方÷アンケート総数×100	%	目標	80	80	100
			実績	90	100	100
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
実施回数	—	回	目標	10	10	15
			実績	15	18	20
参加人数	—	人	目標	400	400	450
			実績	519	478	525
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	3,217	2,189
支出	直接事業費 (b)	千円	104	142
	報償費	千円	90	100
	通信運搬費	千円	9	10
	使用料及び賃借料	千円	5	5
	消耗品費	千円	0	27
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	3,113
	人件費	千円	3,085	2,016
		人	0.55	0.29
	再雇用職員	千円	28	31
		人	0.01	0.01
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	440	219
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	440	219
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	3,657	2,408

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		参加人数	
実績数値 (g)	人	478	525
単位あたり区単コスト (a/g)	円	6,730	4,170
単位あたりコスト (f/g)	円	7,651	4,586

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	異世代・地域交流事業	担当部	福祉部
		担当課	高齢者支援課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>回想法を通じた若い世代との交流には、平成25年度、延べ373人が参加し、参加者のアンケートからは、「語り継ぐことの大切さを痛感した」等の肯定的な意見が寄せられている。</p> <p>また、平成25年度の囲碁将棋大会には42人が参加し、NPO法人葛飾アクティブ・COMIによる農産高校生との交流事業には延べ81人が参加した。</p> <p>これらの事業を合計すると、平成25年度の延べ参加者数は496人であり、同年度の活動目標人数450人を超えている。</p>	
今後の方向性	改善	
	継続	引き続き、シニア世代と若い世代の交流を通して、異世代の相互理解の促進とシニア世代が蓄積してきた知恵や知識の伝承・継承を図る。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
満足度	内容が良いと答えた方÷アンケート総数×100	%	目標	90	90	90
異世代・地域交流参加者数	異世代・地域交流事業の参加者数（延べ）	人	目標	500	500	550

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
シニア世代が蓄積した知恵や知識を伝承・継承するため、異世代・地域交流の機会を設ける	協働	異世代・地域交流を実施した回数	回	目標	20	20	25
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	介護予防普及啓発事業	重点評価区分	重点	担当部	福祉部
				担当課	高齢者支援課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成18年度	根拠法令	介護保険法第115条の45第1項
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	65歳以上の高齢者（介護保険の第1号被保険者）		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 65歳以上の高齢者を対象に、要支援・要介護状態を予防するためのプログラムを提供する。</p> <p>【活動内容】</p> <p>①介護予防講演会 介護予防に資する基本的な知識を普及啓発するため、介護予防講演会を開催する。</p> <p>②はつらつ事業 認知機能の低下、閉じこもり・うつ傾向などの生活リスクを抱える高齢者に対して、指先を使う創作活動、健康づくりの講座や体操等の予防プログラムを提供する。</p> <p>③ふれあい銭湯事業 区内銭湯の開店前の時間に、脱衣所などを活用して健康体操やレクリエーションなどを行う。</p> <p>④シニア版ボニースクール事業 乗馬により、腹筋や背筋の強化や足腰のトレーニング、正しい姿勢を保持することによる猫背予防等を行う。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0402	高齢者が介護を必要とせずに自立して生活できるようにします
事務事業目的	介護予防に関する活動の普及及び啓発活動を行う。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
65歳以上の区民のうち、介護を必要としない人の割合	65歳以上の人口に占める要支援・要介護認定を受けていない人の割合	%	目標	—	—	84.0
			実績	84.4	83.7	83.1
主観的健康度の維持・改善率	最近の体調について主観的な健康度が維持ないし改善した参加者の割合	%	目標	—	—	90.0
			実績	74.0	80.0	89.0

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
各事業参加人数合計	介護予防普及啓発事業に参加した人数	人	目標	—	—	470
			実績	480	478	421
各事業実施回数合計	介護予防普及啓発事業を実施した回数	回	目標	—	—	479
			実績	470	535	535
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	4,430	4,235
	都道府県支出金	千円	2,215	2,117
	その他	千円	8,859	8,979
	一般財源 (a)	千円	6,885	5,928
支出	直接事業費 (b)	千円	17,718	16,640
	報償費	千円	66	66
	消耗品費	千円	14	14
	委託料	千円	17,638	16,558
	通信運搬費	千円	0	2
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	3,555	3,510
	人件費	千円	3,555	3,510
		人	0.45	0.45
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	1,116	1,109
調整額 (e)	千円	360	428	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	360	428	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	22,749	21,687

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		介護予防普及啓発事業回数	
実績数値 (g)	回	535	535
単位あたり区単コスト (a/g)	円	12,868	11,080
単位あたりコスト (f/g)	円	42,521	40,536

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	介護予防普及啓発事業	担当部	福祉部
		担当課	高齢者支援課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	65歳以上の高齢者を対象に、介護予防講演会、はつらつ事業、ふれあい銭湯事業、シニア版ボニースクール事業を実施し、全ての事業を合計した延べ参加者数は平成24年度の4,388人から平成25年度は4,563人に増加しており、介護予防の普及・啓発に成果を上げることができている。		
今後の方向性	改善		
	継続	平成26年6月の介護保険法の改正を受け、第6期葛飾区介護保険事業計画の中で、介護保険事業について位置付けの整理を行った。これにより、本事業のうち、介護予防講演会は26年度で廃止し、はつらつ事業は28年度開始する介護予防・日常生活支援総合事業へ統合する。また、シニア版ボニースクール事業は一般会計の事業へ移行し、ふれあい銭湯事業は引き続き介護保険法内事業として実施していく。	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
65歳以上の区民のうち、介護を必要としない人の割合	65歳以上の人口に占める要支援・要介護認定を受けていない人の割合	%	目標	83.3	83.0	82.7
主観的健康度の維持・改善率	最近の体調について主観的な健康度が維持ないし改善した参加者の割合	%	目標	90	90	90

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
多くの区民が介護予防に取り組む	おもてなし	各事業参加人数合計	人	目標	500	440	300
多くの区民が介護予防に取り組む	おもてなし	各事業実施回数合計	回	目標	470	461	120
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	障害者週間行事	重点評価区分	重点	担当部	福祉部
				担当課	障害者施設課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成4年度	根拠法令	障害者基本法
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	障害者、地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 障害者週間にウェルピアまつりや障害者作品展を開催し、障害者への理解を深める。</p> <p>【活動内容】 ①ウェルピアまつり……地域住民と障害者のふれあいを通して、障害者への理解を深めるため、ウェルピアかつしかを会場におまつりを開催する。 ②障害者作品展……障害者の作品や障害者施設の活動を展示、発表する場を設けることにより、日頃あまりなじみのない障害者の活動やその成果等について、知ってもらう。 ③障害者福祉表彰……障害を克服し、自立した生活を送られている方をはじめ、長年にわたり、障害者の支援に功労があった方、障害者の雇用に多大な協力をいただいている事業所を顕彰し、今後の励みとなるようにする。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0501	障害者が自分らしく自立した生活が営めるように支援します
事務事業目的	障害者が地域とふれあう場を作ることにより、地域社会の障害者への理解促進を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
障害者作品展来場者数	—	人	目標	1,600	1,650	1,650
			実績	1,622	1,215	1,452
作品展出品者・団体数	—	件	目標	55	60	60
			実績	56	55	60

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
ウェルピアまつり開催日数	—	日	目標	1	1	1
			実績	1	1	1
作品展開催日数	—	日	目標	7	7	7
			実績	7	7	7
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	146	146
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	1,715	1,663
支出	直接事業費 (b)	千円	281	249
	消耗品費	千円	79	52
	印刷製本費	千円	48	48
	食糧費	千円	16	7
	通信運搬費	千円	11	11
	筆耕翻訳料	千円	33	37
	自動車借上料	千円	94	94
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	1,580	1,560
	人件費	千円	1,580	1,560
		人	0.20	0.20
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	160	190	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	160	190	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	2,021	1,999

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		障害者作品展来場者数	
実績数値 (g)	人	1,215	1,452
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,412	1,145
単位あたりコスト (f/g)	円	1,663	1,377

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	障害者週間行事	担当部	福祉部
		担当課	障害者施設課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>障害者週間に開催されているウエルピアまつりは、平成26年度で10回目を数え、地域の人たちに障害者の理解を深めてもらう良い機会となっている。 障害者作品展への障害者施設の参加件数も年々増えている。 障害のある方にとっては、障害者週間に作品を展示することや、障害者福祉表彰で顕彰されることにより、社会への参加意欲を高めたり、今後の励みになっている。</p>	
今後の方向性	改善	<p>ウエルピアまつりは、各種ボランティア団体が行うボランティアまつりと合同で開催している。10回目を迎え、まつりが定着してきている一方で、来場者数が横ばいの傾向が見られ、12月という開催時期等に対してボランティア団体から様々な意見が寄せられている。 そこで、これまでの取り組みに加え、ボランティア団体と今後の開催時期等について検討・協議を行い、より多くの地域の人たちに障害者への理解を深めてもらう機会を提供できるよう工夫していく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
障害者作品展来場者数	—	人	目標	1,500	1,550	1,600
作品展出品者・団体数	—	件	目標	60	60	60

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
事業の実施により障害の理解を促進する。	プロセス	ウエルピアまつり開催日数	日	目標	1	1	1
事業の実施により障害者の社会参加を促進する。	プロセス	作品展開催日数	日	目標	7	7	7
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	赤ちゃんの駅事業	重点評価区分	重点	担当部	子育て支援部
				担当課	育成課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成23年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	乳幼児を育てる保護者		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 乳幼児を育てる保護者が外出したときに、おむつ替えや授乳などを気軽に行えるように、公共施設を中心とした施設内におむつ替えや授乳可能なスペースを確保する。</p> <p>【実施内容】 ①おむつ替えベッド・授乳イス・ポット等を備えたスペースを確保する。 ②のぼり旗やステッカーで赤ちゃんの駅の位置を周知する。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0602	子育て中の家庭を支援し、安心して子どもを育てられるようにします
事務事業目的	乳幼児を育てる保護者が安心して外出できる環境をつくる。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
一施設あたりの月平均利用組数	各施設では、利用開始から約半年の間、利用組数を数えている。 ①→②の順に計算。 ①利用開始時期ごとの利用組数÷調査月数＝利用開始時期ごとの一施設あたりの月平均利用組数 ②利用開始時期ごとの一施設あたりの月平均利用組数の合計÷開設時期数＝一施設あたりの月平均利用組数	組	目標	50	20	48
			実績	54	26	23
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
赤ちゃんの駅新規設置施設数	—	件	目標	35	4	4
			実績	35	4	5
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	
	都道府県支出金	千円	295	542
	その他	千円	0	
	一般財源 (a)	千円	1,085	1,223
支出	直接事業費 (b)	千円	590	985
	消耗品費	千円	294	534
	備品費	千円	296	450
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	790
	人件費	千円	790	780
		人	0.10	0.10
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	80	95
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	80	95
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	1,460	1,860

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		新規設置施設数	
実績数値 (g)	件	4	5
単位あたり区単コスト (a/g)	円	271,250	244,600
単位あたりコスト (f/g)	円	365,000	372,000

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	赤ちゃんの駅	担当部	子育て支援部
		担当課	育成課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	平成23年度から25年度までの3年間に「赤ちゃんの駅」を公共施設を中心として44ヶ所に整備した。 利用した方からは、外出時におむつ替えや授乳が気軽にできる等の声があるほか、子育て中でも安心して外出ができるので、設置個所数を増やしてほしい旨の要望があった。これらの声から、当初目的に沿った効果をあげていると評価できる。	
今後の方向性	改善	月平均利用組数が減少している。原因としては、事業に対する認知度の低さが考えられるため、周知方法を工夫し利用組数の向上につなげる。 また、新規に設置し個所数を増やすことで、全体の利用組数を増やす。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
一ヶ月の利用組数	設置施設にて「赤ちゃんの駅」の一ヶ月の利用組数を調査する	組	目標	1,081	1,127	1,173
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
設置個所数	おもてなし	新規設置個所数	個所	目標	2	2	2
H P や広報等での周知	おもてなし	周知の回数	回	目標	10	10	10
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	ふれあい共食会事業委託	重点評価区分	重点	担当部	福祉部
				担当課	高齢者支援課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成22年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者・NPO団体との協働
対象者	地域の高齢者		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>1 事業内容</p> <p>(1) 食事会「ふれあい共食会」の定期的な開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で孤立しがちな高齢者等がふれあい集える食事会を開催する。 ・食事会運営を支援するボランティアを募集し、参加していただく。 <p>(2) 事業周知・推進のための講演会の開催</p> <p>「高齢社会における地域での助け合い・ふれあい活動の推進」を主なテーマとして講演会を実施する。</p> <p>2 事業実施者</p> <p>特定非営利活動法人 中・西会（委託契約）</p> <p>3 実施回数・時間等</p> <p>(1) 食事会 定期的に（概ね2週間に1回実施）年24回程度実施する。</p> <p>(2) 講演会 平成26年度中に1回実施する。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	0802	支援が必要な高齢者等を地域で支えあうしくみをつくります
事務事業目的	地域の高齢者が世代を超えてふれあう活動を通して、高齢者を支える地域住民のネットワークをつくる。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
食事会「ふれあい共食会」の参加者数	食事会「ふれあい共食会」の参加者数	人	目標	600	600	600
			実績	561	490	388
講演会参加者数	講演会参加者数	人	目標	50	50	50
			実績	51	53	35

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
食事会「ふれあい共食会」の開催回数	食事会「ふれあい共食会」の開催回数	回	目標	24	24	24
			実績	24	24	24
講演会の開催回数	講演会の開催回数	回	目標	1	1	1
			実績	1	1	1
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	682	337	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	1,580	1,897	
支出	直接事業費 (b)	千円	682	674	
	委託料	千円	682	674	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	1,580	1,560
		人件費	千円	1,580	1,560
		人	0.20	0.20	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	160	190	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	160	190	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	2,422	2,424	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		食事会「ふれあい共食会」への参加者数	
実績数値 (g)	人	490	388
単位あたり区単コスト (a/g)	円	3,224	4,889
単位あたりコスト (f/g)	円	4,943	6,247

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	ふれあい共食会事業委託	担当部	福祉部
		担当課	高齢者支援課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>「ふれあい共食会」の事業は、会食を通じて地域の人と人がふれあう場であり、閉じこもり傾向のある高齢者の外出の機会となっている。 「ふれあい共食会」の参加者は減少傾向にあるが、地域の中で活動が定着している。</p>	
今後の方向性	改善	
	継続	事業のPR等を工夫して、あらたな利用者の掘り起しに努め、現在の活動を維持する。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
食事会「ふれあい共食会」への参加者の増加	食事会「ふれあい共食会」の参加者数	人	目標	400	400	400
講演会参加者数の増加	講演会参加者数	人	目標	50	50	50

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
高齢者を支える地域住民のネットワークをつくるためにふれあい共食会を開催する	おもてなし	食事会「ふれあい共食会」の開催回数	回	目標	24	24	24
高齢者の食と健康を学ぶため講演会を開催する	おもてなし	講演会の開催回数	回	目標	1	1	1
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	社会を明るくする運動	重点評価区分	重点	担当部	教育委員会事務局
				担当課	地域教育課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和26年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者・NPO団体との協働
対象者	地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>「犯罪や非行のない明るい社会を築く」ことを目指し、法務省が主唱する全国的な運動。毎年7月の強調月間には、区では保護司会と協働し、駅頭や街頭における広報活動として、啓発物品ティッシュペーパーの配布や区の広報車による巡回広報、更には広く区民の理解を得るための「かつしか区民の集い」を実施している。</p> <p>また保護司会独自に、各地域で懇談会やミニ集会、子どもたちから「ハガキによるメッセージ募集」などを実施している。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1004	犯罪や事故から身を守り、安全で、安心して暮らせるまちにします
事務事業目的	区民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更正について理解を深めることで、犯罪や非行を防止する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
「かつしか区民の集い」参加人数	かつしか区民の集い当日の参加者数	人	目標	600	600	690
			実績	680	690	690
社会を明るくする運動活動実績	行事等参加者数	人	目標	15,000	15,100	11,000
			実績	11,017	10,755	10,153

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
駅頭広報ティッシュペーパー等配布数	7月1日にJR3駅、京成8駅、北総1駅で配布	個	目標	20,000	20,000	18,000
			実績	19,500	18,000	18,000
駅頭広報従事者数	7月1日にJR3駅、京成8駅、北総1駅で従事	人	目標	350	360	372
			実績	333	372	382
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	887	1,726
支出	直接事業費 (b)	千円	327	326
	消耗品費	千円	191	191
	通信運搬費	千円	6	5
	使用料及び賃借料	千円	130	130
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	560
	人件費	千円	0	780
		人	0.00	0.10
	再雇用職員	千円	560	620
		人	0.20	0.20
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	0	95
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	0	95
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	887	1,821

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数（区民の集い、各種行事等）	
実績数値 (g)	人	10,755	10,153
単位あたり区単コスト (a/g)	円	82	170
単位あたりコスト (f/g)	円	82	179

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	社会を明るくする運動	担当部	教育委員会事務局
		担当課	地域教育課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>「犯罪や非行のない明るい社会を築く」ことを目指し、毎年7月を強調月間として、区と保護司会が協働で駅頭や街頭における広報活動・啓発物品のティッシュペーパーの配布や、区の広報車による巡回広報を行い、広く区民に啓発を行った。 また、「かつしか区民の集い」をかつしかリリオホールで実施し、区民の理解を得るように努めた。 事業を実施するにあたり、保護司会と連絡・調整を密に行ったので事業をスムーズに進めることができた。</p>	
今後の方向性	改善	<p>毎年7月の強調月間に向けて、区と保護司会の協働のあり方について協議し、より円滑な運営体制を確立する。 社会を明るくする運動について区民の理解を深めるため、ポスターやホームページなどの啓発活動を推進する。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
「かつしか区民の集い」参加人数	当日の参加者数	人	目標	690	690	690
社会を明るくする運動活動実績	行事等参加者数	人	目標	10,600	10,600	10,600

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
広く区民に啓発を図る	活動趣旨の理解を得る	駅頭広報ティッシュペーパー等配布数	個	目標	17,500	17,500	17,500
広報活動の充実を図る	活動趣旨の理解を得る	駅頭広報従事者数	人	目標	380	380	380
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	放置自転車追放キャラバン	重点評価区分	重点	担当部	都市整備部
				担当課	道路管理課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和59年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<ul style="list-style-type: none"> ・区内12駅の周辺など自転車が集中する地域において、チラシやティッシュ等の啓発グッズを配布し、放置自転車一掃を呼びかける。平成14年度からは、自治町会、商店会、警察及び鉄道事業者等と協働して、キャラバン形式で実施している。啓発活動については、主に通勤時間帯におこなっている。 ・平成25年度は11回開催し、各団体から1,024人の参加を得た。 ・区は、参加団体との日程等の調整、依頼文書の発行、また当日の作業の指示及び安全管理を行う。 ・特に、6月に実施する亀有駅周辺地区においては、地域の子ども会や銀行等と協働して、地域の子供たちが「メッセージボード付きひまわりプランター」や、放置自転車禁止のポスターを路上掲示して放置自転車防止を呼び掛けている。 		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1102	違法な駐車・駐輪を少なくします
事務事業目的	自転車の適正な利用の推進と放置自転車を防止する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
1日の平均的自転車放置率	(一日のある時間での放置自転車整理区域内の放置自転車台数÷区域内乗り入れ台数) 区内12駅周辺で月1回 〔10月は2回〕実施する 放自転車実態調査	%	目標	11	10	10
			実績	10	9	7
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
区民等の参加人数	現場確認	人	目標	1,050	1,100	1,200
			実績	1,052	1,024	889
啓発グッズ配布数	現場確認	個	目標	45,000	47,000	47,000
			実績	48,200	41,400	27,020
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	5,236	5,153	
支出	直接事業費 (b)	千円	151	123	
	消耗品費	千円	136	111	
	通信運搬費	千円	15	12	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	5,085	5,030
		人件費	千円	5,085	5,030
		人	0.75	0.75	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	440	523	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	440	523	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	5,676	5,676	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		周知件数（啓発グッズ配布数）	
実績数値 (g)	個	41,400	27,020
単位あたり区単コスト (a/g)	円	126	191
単位あたりコスト (f/g)	円	137	210

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	放置自転車追放キャラバン	担当部	都市整備部
		担当課	道路管理課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放置自転車整理区域内における自転車の放置率は、平成20年度には13.83%であったが、平成25年度には6.87%と半減した。 ・ 放置自転車対策の三本柱である①自転車駐車場の整備、②駅周辺での撤去を含む指導・誘導活動、③自転車利用者のマナー向上とともに当該活動は効果的な対策として役割が果たされている。 	
今後の方向性	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 26年度からは、葛飾・亀有警察署と協力し放置自転車につながる自転車盗難防止を併せてキャンペーンすることとし、名称も放置自転車追放及び盗難防止キャンペーンと改称した。 ・ 従来駅周辺のみでキャンペーンを行ってきたが、放置自転車数が減少した駅を中止し、代わりに大型商業施設でキャンペーンを行うこととする。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
平均自転車放置率 (瞬時測定 of 年度平均)	区内12駅周辺で月1回(10月は2回)実施する放置自転車実態調査	%	目標	7	7	7
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
できるだけ多数の、そして多様な区民等の参加	人づくりおもてなし	区民等の参加人数	人	目標	1,050	1,100	1,200
できるだけ多数の通行人に対する呼びかけ	おもてなし	啓発グッズ配布数	個	目標	30,000	30,000	30,000
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	違法駐車防止巡回指導及び誘導委託	重点評価区分	重点	担当部	都市整備部
				担当課	道路管理課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成5年度	根拠法令	葛飾区違法駐車等の防止に関する条例
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独(委託)
対象者	道路に違法に駐車している自動車運転者		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	道路に駐車している自動車の運転者に違法駐車をしないようシルバー人材センターに委託し、違法駐車防止重点地域である新小岩駅周辺・亀有駅南口・金町駅北口で土・日・祝日の午後1～4時にチラシを配布して指導誘導及び啓発活動を行う。		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1102	違法な駐車・駐輪を少なくします
事務事業目的	交通事故及び交通渋滞を解消するため、違法駐車防止を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
区内JR3駅での一日平均の違法駐車台数	—	台	目標	94	92	90
			実績	91	87	73
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
指導、誘導件数（車両台数）	—	台	目標	4,000	4,000	4,000
			実績	3,797	3,406	2,493
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	2,806	2,796	
支出	直接事業費 (b)	千円	2,016	2,016	
	委託料	千円	2,016	2,016	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	790	780
		人件費	千円	790	780
		人	0.10	0.10	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	80	95	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	80	95	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	2,886	2,891	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		周知件数（指導、誘導件数（車両台数））	
実績数値 (g)	台	3,406	2,493
単位あたり区単コスト (a/g)	円	824	1,122
単位あたりコスト (f/g)	円	847	1,160

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	違法駐車防止巡回指導及び誘導委託	担当部	都市整備部
		担当課	道路管理課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	違法駐車防止重点地域である新小岩駅周辺・亀有駅南口・金町駅北口での委託による指導誘導及び啓発活動の結果、違法駐車台数は、年を追うごとに減少している。一日平均約70台まで減少した。	
今後の方向性	改善	
	継続	平成22年度から委託時間を一割削減して実施したが、それまでと同様の効果（指導・誘導件数）が得られたため、引き続き現行通り実施していく。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区内JR3駅での一日平均の違法駐車台数	—	台	目標	70	65	60
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
交通ルールを守り違法駐車をしないよう、指導・誘導していく。	おもてなし	指導・誘導件数	台	目標	2200	2100	2000
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	交通安全運動推進	重点評価区分	重点	担当部	都市整備部
				担当課	道路管理課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和39年度	根拠法令	交通安全対策基本法
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>○春・秋の交通安全運動期間や、毎月10日の交通安全日等に、主催機関（区、警察署、交通安全協会等）及び協賛団体（自治町会、PTA等）との連携により、区民に対し交通安全の啓発活動を行い、交通事故防止を図る。</p> <p>交通安全協議会（区、区議会、都、警察署、消防署又は区内関係団体代表で構成）を開催するとともに、交通安全実施要領の作成や地域講習会の開催等を実施している。また、交通安全広報活動を広報紙、かつしかFM、ポスター又はHPにより周知し、交通安全意識向上を図っている。</p> <p>○「交通安全区民のつどい」等で交通安全普及啓発活動を行うとともに、交通安全概要を発行している。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1103	歩行者・自転車の安全通行の確保や啓発活動を進め、交通事故を少なくします
事務事業目的	交通安全意識を持ってルールとマナーを守り、事故に遭わない、起こさないようにする。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
交通安全行事（区民のつどい・高齢者のつどい・自転車事故防止のつどい等各種イベント）参加者数	—	人	目標	5,000	5,000	5,000
			実績	4,729	6,083	6,325
区内の交通事故発生件数	—	件	目標	1,650	1,630	1,600
			実績	1,752	1,496	1,291

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
広報回数（広報かつしか・かつしかFM放送・スポット放送・HP・掲示板等）	—	回	目標	300	300	300
			実績	378	420	366
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	8,208	4,498
支出	直接事業費 (b)	千円	1,888	1,908
	報償費	千円	198	222
	消耗品費	千円	1,583	1,583
	委託料	千円	47	47
	使用料及び賃借料	千円	60	56
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	6,320	2,590
	人件費	千円	6,320	2,590
		人	0.80	0.70
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	640	0	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	640	0	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	8,848	4,498	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数（つどい等各種イベント）	
実績数値 (g)	人	6,083	6,325
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,349	711
単位あたりコスト (f/g)	円	1,455	711

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	交通安全運動推進	担当部	都市整備部
		担当課	道路管理課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	春・秋の交通安全運動期間等での交通安全啓発活動や年間を通じての広報活動の結果、交通事故発生件数は年々減少してきている。 しかし、高齢者事故と自転車事故の割合が高いことから、これらの対策の強化が必要と認識している。	
今後の方向性	改善	平成26年度から、これまで中学校を中心に行ってきたスケアードストレート方式の自転車交通安全教室に、地域の自治町会・高齢者団体にも声をかけ、積極的な参加を呼びかけることとした。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
交通安全行事（区民のつどい、高齢者のつどい、自転車事故防止の集い等各種イベント）参加者	—	人	目標	6,500	6,600	6,700
区内の交通事故発生件数	—	件	目標	1,200	1,150	1,100

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
一人でも多くの区民の方へ交通安全の啓発を図っていく	おもてなし	広報回数（広報かつしか・かつしかFM・HP／掲示板等）	回	目標	380	400	420
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	上千葉砂原公園ふれあい動物 広場運営業務委託	重点評価 区分	重点	担当部	都市整備部
				担当課	公園課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和63年度	根拠法令	都市公園法、葛飾区立公園のふれあい動物広場等の管理運営に関する規則
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	児童		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施 内容、手段、過去 の改善実績等)	<p>【概要】 児童の健全育成に向けて、動物の観察、触れ合い、飼育方法の学習等を通じて動物愛護心を育てる。</p> <p>【活動内容】 ①管理運営は業者委託により実施 ②ア. 動物の展示コーナー事業、イ. ポニー乗馬（引き馬）事業、ウ. ヤギ・ウサギ・モルモット等の動物との触れ合い事業、エ. 出張動物園事業（福祉施設等に出向きふれあい事業を実施）等、オ. 飼育ボランティアの指導援助事業 ③入園料は無料、公開時間は午前9時～午後5時、休業日は月・火・祝日の翌日（その日が日曜日又は祝日に当たるときを除く）及び12月28日～1月4日</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策 番号	施策	1201	区民ニーズや地域特性を踏まえた公園を整備し、多くの区民が利用できるようにします
事務事業目的	できるだけ多くの児童に動物と接する機会を設け、動物の観察、ふれ合い、飼育方法等の学習を通じ動物愛護心を育て、児童の健全育成を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
ふれあい動物コーナー利用者数	—	人	目標	45,000	45,000	45,000
			実績	54,099	55,272	53,801
ポニー乗馬利用者数 (ポニー教室参加者含む)	—	人	目標	35,000	35,000	35,000
			実績	42,858	46,964	45,050

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
延べPR回数(ふれあい動物コーナー利用者の増加)	—	回	目標	6	6	6
			実績	6	6	6
延べPR回数(乗馬利用者の増加)	—	回	目標	6	6	6
			実績	6	6	6
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	37,303	38,304	
支出	直接事業費 (b)	千円	36,513	37,524	
	委託料	千円	36,513	37,524	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	790	780
		人件費	千円	790	780
			人	0.10	0.10
		再雇用職員	千円	0	0
			人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	1,623	1,638	
	減価償却費	千円	1,543	1,543	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	80	95	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	38,926	39,942	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数	
実績数値 (g)	人	205,444	195,683
単位あたり区単コスト (a/g)	円	182	196
単位あたりコスト (f/g)	円	189	204

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	上千葉砂原公園ふれあい動物広場運営業務委託	担当部	都市整備部
		担当課	公園課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>ふれあい動物コーナーについては、5万人以上の利用者が訪れており、小動物との触れ合いや観察、飼育方法を体験する学習を通して、児童の動物愛護心の育成が図られている。ポニー乗馬については、利用者が増加傾向にあり、多くの児童が引き馬やポニー教室で馬の世話を体験を通して、道徳的な意識や価値観が養われている。また、社会教育の一環として中学生・専門学校生の職場体験を積極的に受け入れている。</p>	
今後の方向性	改善	<p>1. 多くの児童の利用向上を図るため、事業の活動内容が分かり易いPR活動を工夫して行っていく。 2. ポニー乗馬については、少子高齢化に対応して、高齢者の介護予防に向けた健康づくりの機会を設けるため、高齢者も参加できるしくみを検討する。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
ふれあい動物コーナー利用者数	—	人	目標	45,000	45,000	45,000
ポニー乗馬利用者数 (ポニー教室参加含む)	—	人	目標	35,000	35,000	35,000

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
PRを強化してふれ合い動物コーナー利用者を増加させる。	おもてなし	延べPR回数	回	目標	6	6	6
PRを強化して乗馬利用者を増加させる。	おもてなし	延べPR回数	回	目標	6	6	6
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	新宿交通公園内ミニSL運行	重点評価区分	重点	担当部	都市整備部
				担当課	公園課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和59年度	根拠法令	都市公園法第2条の3、葛飾区ミニSL条例
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	児童		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【概要】 児童の健全育成に向けて、ミニSLの運行、鉄道教室を開催し科学的探究心を育む。</p> <p>【活動内容】 ①業者委託による管理運営 ②ミニSL運転業務：年間100日程度実施。土曜日は新幹線・ディーゼル機関車、日曜日・祝日にSLを運行。子供の日と体育の日は無料開放。料金は、子供（小学生）30円/回、大人100円/回、運転時間は、午前10時～12時、午後1時～4時 ③鉄道教室事業（イベントを併設）：年間5回開催、児童が興味を引くような鉄道に関連する教材を選んで実施。併せてミニSL運転体験の実施。 ④設備保守管理 ⑤軌道内安全管理</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1201	区民ニーズや地域特性を踏まえた公園を整備し、多くの区民が利用できるようにします
事務事業目的	ミニSL等の運行を通して児童の科学への関心や探究心を高め健全な育成を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
乗客数	—	人	目標	70,000	70,000	70,000
			実績	60,418	56,245	53,395
鉄道教室参加者数	—	人	目標	700	700	700
			実績	1,053	817	750

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
延べPR回数（ミニSL乗客数の向上）	—	回	目標	6	6	6
			実績	6	6	6
延べPR回数（鉄道教室参加者数の向上）	—	回	目標	10	10	10
			実績	6	6	6
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	2,494	2,351	
	一般財源 (a)	千円	14,182	14,139	
支出	直接事業費 (b)	千円	15,728	15,554	
	委託料	千円	15,728	15,554	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	948	936
		人件費	千円	948	936
		人	0.12	0.12	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	589	607	
	減価償却費	千円	493	493	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	96	114	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	17,265	17,097	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数（乗客数）	
実績数値 (g)	人	162,450	127,647
単位あたり区単コスト (a/g)	円	87	111
単位あたりコスト (f/g)	円	106	134

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	新宿交通公園内ミニSL運行	担当部	都市整備部
		担当課	公園課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>活動指標である乗客数、鉄道教室参加者数とも過年度に比べて減少傾向にある。乗客数は目標が達成できていないため、「わくわくトレインデーイベント」として、通常に運行している車両ではない、鉄道ファンに人気のある車両の運行を平成24年度に試験的に開始し、平成25年度は年6回（指定日）実施し乗客数の増加に努めた。その結果、イベント時には乗客数が通常時と比べ増加している。</p>	
今後の方向性	改善	<p>今後は、引き続き「わくわくトレインデーイベント」を実施するとともに、PR活動では、ポスター、チラシに加え広報と区のHPでもPR活動を行っていく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
乗客数	—	人	目標	50,000	50,000	50,000
鉄道教室参加者数	—	人	目標	700	700	700

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
PRの強化によるミニSL乗客数の向上	おもてなし	延べPR回数	回	目標	6	6	6
PRの強化による鉄道教室参加者数の向上	おもてなし	延べPR回数	回	目標	10	10	10
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	緑化意識事業	重点評価区分	重点	担当部	環境部
				担当課	環境課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和50年度	根拠法令	緑の保護と育成に関する条例 等
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>①緑化推進協力員制度 ②緑化推進功労者表彰 ③花と緑のはがきコンクール ④緑の募金交付金事業等の各事業を通じ、区民の緑化意識を高め、緑化推進について啓発していく。また、環境・緑化フェアで花と緑のクイズを実施し、さらにイベントの際には緑化推進協力員の協力による園芸相談を開催したり、緑化推進協力員による園芸教室を開催し、区民が緑に親しむ機会を提供したり緑の大切さを考えてもらう契機とする。（①については昭和50年度開始 その他は昭和52年以降開始）</p> <p>③のはがきコンクールについては、平成26年度は写真の部を新設予定。初の試みのため、小学・中学・一般を分けず1部門とする。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1302 豊かな自然を守り育てます 1301 環境活動団体等のネットワーク化を図るとともに環境活動の担い手を育成します
事務事業目的	緑化推進協力員の活動支援や区内における緑化活動の実績が顕著な団体または個人を緑化推進功労者として表彰するなど、緑化活動の一層の推進を図る。また、各種緑化啓発イベント等を実施することにより区民の緑化意識を高めていく。	

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
各種緑化啓発イベント参加者数	花と緑のはがきコンクール応募者数+花と緑のクイズ参加者数	人	目標	1,850	1,850	1,850
			実績	1,844	1,845	1,622
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
花と緑のはがきコンクール応募者数	—	人	目標	1,500	1,500	1,500
			実績	1,609	1,545	1,322
花と緑のクイズ参加者数	—	人	目標	350	350	350
			実績	235	300	300
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	8,256	8,076
支出	直接事業費 (b)	千円	1,146	981
	報償費	千円	734	722
	消耗品費	千円	269	125
	印刷製本費	千円	113	98
	通信運搬費	千円	30	36
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	7,110	7,095
	人件費	千円	7,110	6,630
		人	0.90	0.85
	再雇用職員	千円	0	465
		人	0.00	0.15
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	720	808	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	720	808	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	8,976	8,884

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数 (各種緑化啓発イベント)	
実績数値 (g)	人	1,845	1,622
単位あたり区単コスト (a/g)	円	4,475	4,979
単位あたりコスト (f/g)	円	4,865	5,477

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	緑化意識事業	担当部	環境部
		担当課	環境課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>①緑化推進協力員制度②緑化推進功労者表彰③花と緑のはがきコンクール④緑の募金交付金事業などの既存事業相互が関連し、区民・事業者の緑化意識を高めている。 イベントについては参加者数の目標を上方修正のうえ実施している。</p>	
今後の方向性	改善	<p>緑化推進協力員は、区内の緑化活動の中心的な担い手として活動が活発になってきたため、平成26年度より定員を5増とした。協力員が都や区が実施している各種研修を受講しやすい制度を整え、習得した知識・技能を区民に還元できる体制づくりを実施。園芸教室などの緑化啓発イベントを区内各地で実施できるようにし、より多くの区民参加の機会を設け、緑化意識の高揚を図る。 なお、緑のカーテン等普及事業と、緑と花のまちづくり事業は平成25年度より単独事業として実施することとなった。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
各種緑化啓発イベント参加者数	活動指標①+②	人	目標	1,850	1,850	1,850
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
緑化啓発イベントを魅力あるものにする。	おもてなし	①花と緑のはがきコンクール応募者数	人	目標	1,500	1,500	1,500
緑化推進協力員と協働してイベントを実施する。	おもてなし 人づくり	②花と緑のクイズ参加者数	人	目標	350	350	350
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	河川浄化運動	重点評価区分	重点	担当部	環境部
				担当課	環境課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成2年度	根拠法令	綾瀬川清流ルネッサンス連絡会規約
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>区民、国、流域自治体と連携して、①綾瀬川の長期的な水環境改善の取り組みを維持する活動の継続 ②綾瀬川中下流域2区4市（葛飾区、足立区、草加市、越谷市、八潮市、川口市）による流域連携の下に行う合同調査等 ③綾瀬川クリーンキャンペーン（区民及び環境保全団体とともに、綾瀬川をきれいにするための普及啓発活動として行うイベント）、綾瀬川みんなで水質調査、江戸川を守る会、区民及び環境保全団体の活動紹介等の支援を通じた普及啓発活動を実施する。</p> <p>なお、①については平成23年11月をもって解散された「綾瀬川清流ルネッサンスⅡ地域協議会」における活動を継続していくために設立された「綾瀬川清流ルネッサンス連絡会」にて取組を行っている。③の綾瀬川クリーンキャンペーンについては、平成24年度から毎年6月に実施する「かつしか環境・緑化フェア」内にてブースを設けることとして、実施形態を変更した。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1302	豊かな自然を守り育てます
事務事業目的	区内を流れる河川の水質を毎年向上させる。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
綾瀬川の水質（BOD）	水質の汚染度（区環境課が実施する水戸橋における年平均のBOD）	mg/L	目標	3	3	3
			実績	2.9	3.3	2.2
キャンペーン参加者数	綾瀬川みんなで水質調査、綾瀬川クリーンキャンペーンの延べ参加者数	人	目標	1,200	1,300	3,500
			実績	483	4,520	3,620

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
流域関係機関との協議回数	綾瀬川清流ルネッサンスⅡ地域協議会、綾瀬川清流ルネッサンス連絡会、綾瀬川浄化対策協議会、江戸川を守る会での会議回数	回	目標	17	17	14
			実績	20	13	17
キャンペーン実施回数	綾瀬川みんなで水質調査、綾瀬川クリーンキャンペーンの実施回数	回	目標	2	2	2
			実績	2	2	2
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	158
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	4,360	4,139
支出	直接事業費 (b)	千円	410	397
	消耗品費	千円	84	71
	委託料	千円	246	246
	負担金	千円	80	80
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	3,950
	人件費	千円	3,950	3,900
		人	0.50	0.50
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	400	475
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	400	475
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	4,760	4,772

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数 (各キャンペーン)	
実績数値 (g)	人	4,520	3,620
単位あたり区単コスト (a/g)	円	965	1,143
単位あたりコスト (f/g)	円	1,053	1,318

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	河川浄化運動	担当部	環境部
		担当課	環境課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>過去3年間における綾瀬川の水質については、BOD値が3mg/Lと環境基準（C類型）の5mg/Lを下回り基準を達成して、安定傾向である。</p> <p>また、流域関係機関との協議回数や区民参加型のキャンペーンの実施は目標どおり実施することができ、特に「綾瀬川クリーンキャンペーン」については平成24年度から毎年6月に実施する「かつしか環境・緑化フェア」内にブースを設けて実施した結果、毎年約3,000人～4,000人の来場者が訪れるなど、大幅な集客に改善された。</p>	
今後の方向性	改善	
	継続	<p>キャンペーン等の啓発活動では、河川浄化活動を行っている区民団体との協働や関係機関との連携を図り実施方法等を工夫した結果、大幅な改善となったことから、今後も継続的に区民に河川浄化運動を普及啓発していく。</p>

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
綾瀬川の水質（BOD）	水質の汚染度（区環境課が実施する水戸橋における年平均のBOD）	mg/L	目標	3	3	3
キャンペーン参加者数	綾瀬川みんなで水質調査、綾瀬川クリーンキャンペーンの延べ参加者数	人	目標	3800	3800	3800

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
河川の水質改善と区民への普及啓発に向けて、さらなる流域関係機関との連携を図る	人づくり	綾瀬川清流ルネッサンス連絡会、綾瀬川浄化対策協議会、江戸川を守る会での会議回数	回	目標	14	14	14
魅力ある事業の実施に努め、キャンペーン等の参加者数の拡大を図る。	おもてなし	綾瀬川みんなで水質調査、綾瀬川クリーンキャンペーンの実施回数	回	目標	2	2	2
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	河川愛護活動	重点評価区分	重点	担当部	都市整備部
				担当課	街づくり調整課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成6年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	NPO団体との協働
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>荒川クリーンエイドは、平成6年から荒川の自然環境を保全するため、ゴミを「拾う」から「捨てさせない」仕組みづくりについて考えながら、春と秋の年2回、区民及びNPO、企業、自治体が連携して清掃活動を実施する。また、荒川を考える葛飾区民会議は、荒川の将来をよりよいものとしていくために、住民や行政等で、お互いの英知を提供し、荒川の持つ様々な価値や機能についての知識を深め、これを守り育てる住民参加の場として開催する。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1302	豊かな自然を守り育てます
事務事業目的	<p>区民の河川環境を守る意識を高める。 河川流域の近隣自治体や国及びNPO等と協力して、区民参加の河川愛護活動を推進する。</p>		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
荒川クリーンエイド参加者数	—	人	目標	200	200	200
			実績	186	378	0
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
ポスター掲示、リーフレット配布箇所数	—	箇所	目標	15	15	15
			実績	18	18	18
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	1,727	1,624	
支出	直接事業費 (b)	千円	147	64	
	委託料	千円	147	64	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	1,580	1,560
		人件費	千円	1,580	1,560
		人	0.20	0.20	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	160	190	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	160	190	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	1,887	1,814	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ参加者数（クリーンエイド）	
実績数値 (g)	人	378	0
単位あたり区単コスト (a/g)	円	4,569	—
単位あたりコスト (f/g)	円	4,992	—

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	河川愛護活動	担当部	都市整備部
		担当課	街づくり調整課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>荒川クリーンエイドは、区民やNPO、企業、行政などが主体的に、荒川の清掃活動を行う事業で、葛飾区では春は荒川で活動する環境団体と協働し、また秋は区民を主体とした組織である「荒川を考える葛飾区民会議」と協働して、あわせて年2回開催してきている。</p> <p>この活動には、河川敷で練習を行っている「葛飾区少年軟式野球連盟」や「中川中学校」全校生徒、「荒川を考える葛飾区民会議」委員の参加などにより、10年以上に渡って継続的に実施しており、平成25年度末、荒川クリーンエイド20周年を記念して、国土交通省より感謝状が各団体に贈られた。</p> <p>荒川クリーンエイド事業を通じて、区民の河川愛護の意識が向上してきている。</p>	
今後の方向性	改善	
	継続	河川愛護意識を醸成させながら、河川環境を保全していく事業であり、今後も、区民、NPO、企業団体の参加により実施していく。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
荒川クリーンエイド参加者数	—	人	目標	200	200	200
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加者数を増やすため公共施設等へのポスター掲示やリーフレット配布を行う。	おもてなし	ポスター掲示、リーフレット配布箇所数	箇所	目標	20	20	20
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	環境月間普及啓発	重点評価区分	重点	担当部	環境部
				担当課	環境課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和63年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>1 6月の環境月間に合わせて、区民団体（環境保全活動団体）や事業者、協力団体（公共機関等）の参加・協力を得て、区主催の「かつしか環境・緑化フェア」を、テクノプラザかつしかを会場として開催する。 【平成25年度実績】参加団体数：31団体、入場者数：3,500人</p> <p>2 区民団体（環境保全活動団体）の活動や地球温暖化防止に関する取組みなどを紹介する「環境月間パネル展」を、区民ホール、エコライフプラザ、地区センターの区施設5会場を巡回して実施する。【平成25年度実績】開催日数：33日間、入場者数：2,988人</p> <p>3 小学校4～6年生及び中学生を対象に、環境をテーマとする「環境ポスターコンクール」を実施する。審査会で優秀作品を選出し、入賞者は表彰するとともに、優秀作品は区民ホール、エコライフプラザ・地区センターの区施設6会場を巡回する優秀作品展示会を行う。 【平成25年度実績】応募作品数：547点、表彰数：68点、入場者数4,600人</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1304	温室効果ガスを削減するため、省エネ行動や再生可能エネルギー利用を促進します
事務事業目的	イベント等を通して、区民の環境保全や地球温暖化防止に関する意識や緑化意識を高め、一人ひとりが環境に配慮した行動を実践する契機とするとともに、緑の保全と創出を促進する。また、ポスターの作成及び展示等を通して、児童・生徒のほか区民の環境保全等に関する意識の啓発を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
環境月間イベント来場者数	環境・緑化フェア、パネル展の来場者数	人	目標	6,460	7,000	7,000
			実績	6,460	7,830	6,488
ポスターコンクールの来場者数	ポスターコンクールの応募者及び来場者数	人	目標	4,400	4,500	5,000
			実績	5,016	5,001	5,147

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
環境月間イベント、ポスターコンクール開催回数	—	回	目標	10	12	12
			実績	10	11	12
環境月間イベント出展団体数	—	団体	目標	32	34	35
			実績	32	38	31
ポスターコンクール応募作品数	—	作品	目標	720	770	600
			実績	536	521	547
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	5,298	7,224
支出	直接事業費 (b)	千円	1,348	1,374
	消耗品費	千円	322	318
	印刷製本費	千円	171	169
	委託料	千円	574	604
	使用料及び賃借料	千円	281	283
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	3,950	5,850
	人件費	千円	3,950	5,850
		人	0.50	0.75
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
間接費 (d)	千円	0	0	
調整額 (e)	千円	400	713	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	400	713	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	5,698	7,937	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数（フェア・作品展）	
実績数値 (g)	人	12,831	11,635
単位あたり区単コスト (a/g)	円	413	621
単位あたりコスト (f/g)	円	444	682

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	環境月間普及啓発	担当部	環境部
		担当課	環境課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>環境月間イベントやポスターコンクール展の開催により、区民、事業者が環境保全や地球温暖化防止について考える機会が増え、環境に配慮した行動に取り組むことへの啓発に繋がっている。</p> <p>環境月間イベント来場者数のうち、環境・緑化フェアの来場者数は、6月の梅雨時の開催ということもあり当日の天候により大きく左右される。平成25年度は雨天であったため、前年度より大幅な入場者の減となった。また、「環境月間パネル展」及び「環境ポスターコンクール」の来場者数は、年度により変動があるものの、それぞれ、3千人前後、4千500人～5千人の範囲で推移している。</p> <p>本事業の中心的イベントである環境・緑化フェアについては、現時点でもある程度の来場者を確保し、環境問題の普及啓発に役立っていると考えているが、今後も更なる工夫により来場者を増やしていきたい。</p>	
今後の方向性	改善	<p>「環境・緑化フェア」については、平成23年度事務事業評価表(重点評価)において、「出展団体の交流及び意見交換が図られる仕組みをつくり、区・区民団体・事業者が協力し来場者にメッセージを伝えられる企画を検討する。」と今後の方向性を記載し、区単独(直営)から協働の視点を強化してより来場者の増加を見込める事業への転換を進めてきた。新たに意見交換会を実施するなど、参加団体の声を運営に反映させる仕組みを作ったが、フェアの企画・立案、全体調整などは区職員主導で進められている。今後は、葛飾区地球温暖化対策地域協議会や葛飾区生物多様性推進協議会との共催にするなどして、区民・事業者との協働イベントとしての方向性を明確にしていくとともに、体験型・参加型のブースを増やすなど内容の充実を図り、来場者を増やしていく。さらに、環境月間を契機に、年間を通じた環境問題の普及啓発へつなげていく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
環境月間イベント来場者数	環境・緑化フェア、パネル展の来場者数	人	目標	7,000	7,350	7,700
ポスターコンクールの来場者数	ポスターコンクールの応募者及び来場者数	人	目標	5,000	5,200	5,300

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
環境月間イベントの来場者を増やすため、広報・ホームページを活用してイベント情報を周知する。	おもてなし	環境月間イベント、ポスターコンクール実施会場数	回	目標	12	12	12
区民団体や事業者と連携を図り、環境活動の取り組みを紹介するブースを増やす。	プロセス	環境月間イベント出展団体数	団体	目標	35	35	35
ポスターコンクールの学校への募集案内の時期、内容等を工夫し、参加者数を増やす。	おもてなし	ポスターコンクール応募作品数	作品	目標	600	630	660
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	ポイ捨て防止等環境美化活動	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	地域振興課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成17年度	根拠法令	葛飾区きれいで清潔なまちをつくる条例
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	区民、事業者、在勤、在学、地域活動団体、来訪者		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>「葛飾区きれいで清潔なまちをつくる条例」の趣旨を広く周知する。</p> <p>①区内全駅で歩行喫煙者に直接注意を行うパトロールの実施 ②区内駅頭やお祭りなどのイベント会場でポイ捨て等禁止キャンペーンの実施 ③広報かつしかやエフエムかつしか、京成タウンバス車内放送を利用した広報活動 ④路面シールなど禁止周知サインの設置 ⑤禁止周知プレートの区民への配布</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1305	ごみのない、きれいで清潔なまちにします
事務事業目的	ポイ捨てをしない、しにくい状態をつくり、ごみのないきれいで清潔なまちにする。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
JR3駅におけるポイ捨て数	ポイ捨て実態調査（JR3駅においてポイ捨てされたたばこ、空き缶、空き瓶、ペットボトルの数）	個	目標	11,000	10,500	10,500
			実績	14,856	10,404	10,501
区内がごみのない、きれいで清潔なまちになっていると思う区民の割合	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	—	—
			実績	37.2	39.4	40.3

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
広報かつしか特集号への掲載	—	回	目標	2	2	2
			実績	2	2	2
イベント会場・駅頭における啓発活動の回数	—	回	目標	39	39	39
			実績	39	42	42
パトロール実施回数	—	回	目標	2,444	2,444	2,444
			実績	4,278	4,278	4,278
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	37,861	37,511
支出	直接事業費 (b)	千円	31,620	31,349
	消耗品費	千円	2,031	1,817
	広告料	千円	315	315
	委託料	千円	29,274	29,217
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	6,241	6,162
	人件費	千円	6,241	6,162
		人	0.79	0.79
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
間接費 (d)	千円	0	0	
調整額 (e)	千円	632	751	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	632	751	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	38,493	38,262

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		周知件数 (各事業)	
実績数値 (g)	件	4,322	4,322
単位あたり区単コスト (a/g)	円	8,760	8,679
単位あたりコスト (f/g)	円	8,906	8,853

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	ポイ捨て防止等環境美化活動	担当部	地域振興部
		担当課	地域振興課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>平成17年8月、「葛飾区きれいで清潔なまちをつくる条例」を施行し、たばこの吸い殻等のポイ捨てや歩きタバコ、犬・猫のふんの放置を禁止した。多くの区民に条例の趣旨を理解し、遵守してもらうよう様々な啓発活動を行った。また、歩行喫煙者などには直接注意するパトロールを区内全駅で実施している。平成20年度からは、国の緊急雇用事業を活用したパトロール活動の充実などにより、歩行喫煙率が減少（条例施行前平成16年12月：2.49%→平成25年12月：0.14%）する等の効果が出ている。</p>		
今後の方向性	改善		
	継続	区内全駅で実施しているパトロール活動を継続するとともに、「きれいで清潔なまち」の実現に向けて、今後も普及啓発活動を展開していく。なお、取り組みの効果を検証する必要があるため実態調査も継続する。	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区民が清潔なまちになっていると思う区民の割合	葛飾区政策・施策マーケティング調査	%	目標	—	38.2	—
ポイ捨て実態調査	JR3駅においてポイ捨てされたたばこ、空き缶、空き瓶、ペットボトルの数	個	目標	10,500	10,000	10,000

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
条例の周知を図るとともに、ポイ捨て防止等を働きかける。	普及・啓発	広報かつしか特集号への掲載	回	目標	2	2	2
条例の周知を図るとともに、ポイ捨て防止等を働きかける。	コスト	イベント会場・駅頭における啓発活動の回数	回	目標	39	39	39
歩きタバコ・ポイ捨て防止パトロールを実施し注意喚起を図る。	コスト	パトロール実施回数	回	目標	2,444	2,444	2,444
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	環境美化の日事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	地域振興課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和59年度	根拠法令	「ごみのない、きれいで清潔なまち宣言」に基づく活動実施要綱
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	環境美化の重要性を広く周知するため、5月の最終日曜日を「葛飾区環境美化の日」とし、自治町会等の関係協力団体に道路、公園など、公共の場所の清掃活動への参加を呼びかけて実施している。また、当日は、荒川・江戸川河川敷利用者や子ども会等によりクリーン作戦を実施している。区は、清掃活動に必要な清掃資材（軍手、ごみ袋）について参加予定数の1/3を配布するとともに、集積したごみの回収・処分等の経費を負担している。		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1305	ごみのない、きれいで清潔なまちにします
事務事業目的	区民一人ひとりが「まち」をあげて美化活動に参加することにより、「ごみを捨てない」美化意識を深めるとともに、地域における美化活動の一層の発展を図ることを目的とする。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加を表明した団体数	—	団体	目標	220	220	220
			実績	232	231	248
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
ポスター、チラシの配布枚数	—	枚	目標	19,500	19,500	19,000
			実績	18,500	18,239	18,819
広報かつしか（特集号）への掲載	—	回	目標	1	1	1
			実績	1	1	1
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	8,252	8,080
支出	直接事業費 (b)	千円	5,618	5,477
	消耗品費	千円	861	926
	通信運搬費	千円	2,093	1,843
	委託料	千円	2,664	2,708
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	2,634	2,603
	人件費	千円	2,634	2,603
		人	0.36	0.36
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	248	295	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	248	295	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	8,500	8,375

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		参加を表明した団体数	
実績数値 (g)	団体	231	248
単位あたり区単コスト (a/g)	円	35,723	32,581
単位あたりコスト (f/g)	円	36,797	33,770

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	環境美化の日事業	担当部	地域振興部
		担当課	地域振興課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>区民一人ひとりが、美化活動に参加することで美化意識を高め、地域における美化活動の発展を図ることを目的に、5月の最終日曜日を「葛飾区環境美化の日」として定め、区内全域で一斉に清掃活動を行うクリーン作戦を実施している。区内全域の自治町会、江戸川、荒川河川敷利用者等の参加など広く区民に定着している事業である。</p>	
今後の方向性	改善	
	継続	<p>5月の最終日曜日にクリーン作戦を実施するとともに、地域における美化活動を支援する。「葛飾区環境美化の日」以外でも地域の自主的な美化活動を助長するよう環境美化地区支援事業と連動させるなど、美化意識の高揚を図り、豊かな明るい環境作りを継続する。</p>

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加を表明した団体	—	団体	目標	220	220	220
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
「美化の日」クリーン作戦への参加を働きかける。	コスト	ポスター、チラシの配布枚数	枚	目標	19,000	19,000	19,000
「美化の日」を契機とした意識啓発を図る。	普及・啓発	広報かつしか（特集号）への掲載	回	目標	1	1	1
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	かつしかエコライフプラザ管理運営	重点評価区分	重点	担当部	環境部
				担当課	リサイクル清掃課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成23年度	根拠法令	かつしかエコライフプラザ条例・同施行規則
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【概要】 区民や事業者がより主体的・積極的にエコライフや3Rに取り組むための情報提供、学習、実践、活動、人材育成の拠点として、平成23年6月に開設した（立石図書館併設）。</p> <p>【活動内容】 ①エコ校房…不要となったものを再生利用するための講座や、廃材等を使った工作教室を実施する。 ②展示・学習コーナー…環境や3Rに関するパネルの展示、分別ゲームや発電装置など、体験をとおして環境や3Rの啓発を行う。 ③リユース家具展示・販売コーナー…粗大ごみとして出された家具の中から使えるものを修理した後、展示・販売を行う。 ④日用不用品販売コーナー…区民から無償で提供された新品同様の日用品・衣料品の展示・販売を行う。 また、区オリジナル古紙再生品（トイレtpーパー・ティッシュペーパー）の販売を行う。 ⑤研修室…講座、講演会、フリーマーケットのほか、団体、一般への貸し出しを行う（有料）。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1306	発生抑制を最優先にごみ減量に地域をあげて取り組めるようにします
事務事業目的	区民がモノをごみとして「消費する、捨てる」という考えから「発生を抑制する、再利用・再生使用する」という考え方へと転換し、資源循環型社会の形成に向けた意識を向上させる。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
区民1人1日あたりの家庭ごみ排出量	家庭ごみ排出量÷区民人口÷365日	g	目標	558	546	534
			実績	548	547	533
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
延べ来場者数	展示・学習コーナー＋リユース家具展示・販売コーナー＋日用不用品販売コーナー利用者数	人	目標	73,840	101,700	108,300
			実績	65,327	85,057	102,555
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	3,812	3,544
	一般財源 (a)	千円	15,978	15,615
支出	直接事業費 (b)	千円	10,310	11,359
	消耗品費	千円	357	372
	修繕料	千円	51	16
	通信運搬費	千円	5	6
	委託料	千円	9,779	10,965
	備品費	千円	118	0
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	9,480	7,800
	人件費	千円	9,480	7,800
		人	1.20	1.00
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	960	950	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	960	950	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	20,750	20,109

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数	
実績数値 (g)	人	85,057	102,555
単位あたり区単コスト (a/g)	円	188	152
単位あたりコスト (f/g)	円	244	196

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	かつしかエコライフプラザ管理運営	担当部	環境部
		担当課	リサイクル清掃課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>平成23年6月に開館した当施設の来場者数は、平成24年3月までの9ヶ月間で約65,000人、平成24年度約85,000人、平成25年度は約102,500人と着実に増加しており、ごみ減量や3Rに取り組むための施設として、徐々にではあるが区民にも認知・利用されてきているといえる。</p> <p>一方で、「葛飾区一般廃棄物処理基本計画」における区民1人1日あたりの家庭ごみ量の削減目標を達成していくためには、これまで以上に当施設を情報提供・学習・実践・活動の拠点として、より多くの区民の方に利活用していただき、ごみ減量や3Rに取り組みややすい環境を整えていく必要がある。</p>	
今後の方向性	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・リユース家具の提供については、家具を「自分で持ち帰る」ということから、現状では近隣居住者等の利用が多い。今後は、事業の在り方を検討するとともに、区内全域の方が利用しやすい仕組みと周知方法について工夫していく必要がある。 ・展示学習コーナーでは、平成26年3月にごみ減量・3Rをゲーム感覚で学習できる展示物の改修を一部実施した。今後は、子どもに限らず大人も対象とした来場者・学習者数の増加を目指し、学習コーナーの掲示内容を随時見直ししていくとともに、出前講座の会場や地域の勉強会の場としての活用も検討していく。 ・日用不用品販売コーナー「ゆず屋」では、販売物品が区民等の寄付により成り立っているため、慢性的な品薄状態が続いている。一方で、平成26年7月より、区の「古布の拠点回収」を同コーナーで開始した。中には新品同様の衣類等を持ってくる方もいるため、今後は「ゆず屋」への提供も可能な仕組みを構築することで、提供数を確保し日用品のリユースの促進を目指す。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区民1人1日あたりの家庭ごみ排出量	家庭ごみ排出量÷区民人口÷365日	g	目標	522	510	498
—	—	—	目標	—	—	—

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区民が利用しやすい事業を構築し、リユース家具の提供数の増加を図る	プロセス	リユース家具提供数	個	目標	9,000	9,250	9,500
学習コーナーを「区民に知ってもらおう」ための工夫と活用方法の検討	おもてなし	展示学習コーナー来場者数	人	目標	22,000	22,500	23,000
利用者数の増加により日用品のリユース促進を図る	おもてなし	日用不用品販売コーナー来場者数	人	目標	36,000	37,000	38,000
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	葛飾区認定製品販売会事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	商工振興課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成25年度	根拠法令	
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（直営）
対象者	区民		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>これまで区が認定してきた「メイドインかつしか」製品を一堂に集めた販売会を実施する。</p> <p>開催日時：第一回 平成25年7月28日（日）10時から15時 第二回 平成26年1月26日（日）10時から15時</p> <p>会場：テクノプラザかつしか</p> <p>運営方法：葛飾ブランド、伝統産業、一店一品、葛飾産野菜に関する団体から選出した連絡員により、企画・運営</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1401	新たな技術や事業の創出を支援するとともに、区内産業の魅力を広くアピールして、産業を活性化します
事務事業目的	区で認定している葛飾産認定製品のPR販売の機会を提供し、一層の産業振興を図るため、販売会を開催し、各認定製品の普及や販売促進を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
延べ来場者数	—	人	目標	—	—	3,000
			実績	—	—	3,000
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
出展者数	—	店	目標	—	—	70
			実績	—	—	74
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	0	3,861
支出	直接事業費 (b)	千円	0	741
	消耗品費	千円	0	156
	印刷製本費	千円	0	104
	委託料	千円	0	210
	使用料及び賃借料	千円	0	271
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	0	3,120
	人件費	千円	0	3,120
		人	0.00	0.40
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	0	380	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	0	380	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	0	4,241	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数	
実績数値 (g)		—	3,000
単位あたり区単コスト (a/g)	円	—	1,287
単位あたりコスト (f/g)	円	—	1,414

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	葛飾区認定製品販売会事業	担当部	地域振興部
		担当課	商工振興課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>平成25年度から事業開始、年2回の販売会を実施した。事業の定着や来場者を増やすため、体験型イベントを実施するなどの工夫に努めている。また、出展にかかる費用や設営作業に関しては、原則出展者負担であり、区は会場使用料や冷蔵ショーケース等の設備の借上げ、周知用チラシ等の経費を負担している。</p>	
今後の方向性	改善	<p>開催時期について、各団体が繁忙期等が異なることを踏まえながら、開催時期や回数等について見直しながら進めていく。今後、来場者を増やし、葛飾産製品を広く周知するためにも、様々な体験教室等を行うなどの工夫をしていく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
来場者数	販売会の実施期間（2日間）の延べ来場者数	人	目標	3,500	4,000	4,000
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
葛飾区認定製品をより広く周知するための魅力ある販売会とし、来場者の増加を図る。	おもてなし	販売会の延べ出展者数	店	目標	70	70	70
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	トイランド運営事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	商工振興課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和63年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	区内児童・生徒等		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>1 トイランドの運営 テクノプラザかつしか内にトイランドとしておもちゃを常時展示している。昔懐かしいおもちゃなど、区内で製造されたおもちゃを展示している。平成24年3月に施設改修に伴い、移設、リニューアルを行った。</p> <p>2 おもちゃアイデアコンクール こんなおもちゃがあったらいいなをテーマに区内小学生から作品を募集し、審査・表彰を行う。（募集：年1回－6月から8月末）平成22年度は教育委員会で実施。平成22年度から東京理科大賞を設定、24年度からは表彰式を産業フェアのイベントとして実施。</p> <p>3 おもちゃ病院 ボランティアの（登録者8名）の協力により、壊れたおもちゃを修理する。毎月第4日曜日（例外：10月は産業フェア前半の3日間、12月は第3日曜日）の年14日、テクノプラザかつしかで開催している。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1402	区内の事業所が安定的に経営できるようにします
事務事業目的	おもちゃの展示やコンクールなどおもちゃに触れる機会の提供により、葛飾区のおもちゃ産業の歴史についての理解を深める。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
おもちゃアイデアコンクールの応募件数	応募件数	件	目標	200	200	200
			実績	238	204	132
おもちゃ病院の受付件数	受付件数	件	目標	300	320	320
			実績	318	332	329

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
おもちゃアイデアコンクールの開催回数	コンクールの開催回数	回	目標	1	1	1
			実績	1	1	1
おもちゃ病院の開催回数	開催回数	回	目標	14	14	14
			実績	14	14	14
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	1,265	1,269
支出	直接事業費 (b)	千円	475	489
	消耗品費	千円	47	66
	委託料	千円	374	370
	使用料及び賃借料	千円	54	53
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	790
	人件費	千円	790	780
		人	0.10	0.10
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	80	95
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	80	95
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	1,345	1,364

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数（おもちゃ病院の受付件数）	
実績数値 (g)	件	332	329
単位あたり区単コスト (a/g)	円	3,810	3,857
単位あたりコスト (f/g)	円	4,051	4,146

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	トイランド運営事業	担当部	地域振興部
		担当課	商工振興課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	おもちゃ病院の受付件数は、微増、おもちゃアイデアコンクールの応募件数は25年度に激減した。トイランドは施設内の目立つ位置（大階段下）に移設した。おもちゃコンクールは平成24年度から表彰式を11月のおもちゃ病院開業日から10月の産業フェアのイベントとして行ったが、多くの来場者の前にしての受賞は、児童の励みにつながったものと考えている。	
今後の方向性	改善	おもちゃアイデアコンクールは区内小学校への参加の呼びかけ、おもちゃ病院は、「葛飾区認定製品販売会」など、他事業と同時実施するなど工夫し、成果を上げていく。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
おもちゃアイデアコンクールの応募件数	—	件	目標	200	200	200
おもちゃ病院の受付件数	—	件	目標	320	320	320

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
おもちゃ産業についての理解を深めるため、運営を充実する。	おもてなし	トイランドの展示替え・催事の回数	回	目標	3	3	3
愛着を持ったおもちゃで長く遊べるように修理の場を設ける。	おもてなし	おもちゃ病院の開催回数	回	目標	14	14	14
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	ふれあいレクリエーション農園事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	産業経済課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成元年度	根拠法令	葛飾区地域産業活性化プラン
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	一般区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>区内農家の協力により、農家が育てた農産物の収穫体験を行う。</p> <p>【実施概要】 品目により6月～12月にかけ実施。利用者は指定の期間に直接畑へ行き、野菜を収穫する。</p> <p>【募集方法】 広報かつしか・区HPで募集し、往復はがき又は電子申請により受け付ける。募集区画数を応募数が上回る場合は抽選。</p> <p>【主な品目】 トマト、ジャガイモ、枝豆、さつまいも、プロコッリー、ねぎ</p> <p>【参加費】 1区画あたり2,000円～5,000円（品目により異なる・25年度）参加費は、利用者が直接農家に支払う。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1403	産業に対する区民の理解を深め、産業と調和のとれた地域をつくります
事務事業目的	農産物の収穫体験を通して区民の都市農業・都市農地への理解を深める。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加家族数	—	家族	目標	400	420	440
			実績	391	493	478
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
実施区画数	—	区画	目標	500	510	520
			実績	433	523	527
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	930	886	
支出	直接事業費 (b)	千円	140	106	
	消耗品費	千円	140	106	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	790	780
		人件費	千円	790	780
		人	0.10	0.10	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	80	95	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	80	95	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	1,010	981	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		来場者数（参加家族数）	
実績数値 (g)	家族	493	478
単位あたり区単コスト (a/g)	円	1,886	1,854
単位あたりコスト (f/g)	円	2,049	2,052

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	ふれあいレクリエーション農園事業	担当部	地域振興部
		担当課	産業経済課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>平成25年度は、夏野菜・秋野菜6品目を計527区画で実施した。応募が募集を上回り抽選になる品目の多い人気の事業で、繰り返し利用したいとの要望も多い。 また、農地が減少しているなかで、都市住民が農業・農地と親しむ機会をつくり、都市農地が持つ環境・防災・食育など多様な機能をPRすることにより都市農業への理解を深める役割も有する。</p>	
今後の方向性	改善	<p>農地・農家の減少や区画割の作業負担などにより、新規協力農園の確保が困難になっている。区民の要望に応えられるよう、必要に応じて利用料の見直しや区画当たりの株数の見直しを行うなど、既存の区画数を確保していく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加家族	—	家族	目標	440	440	440
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
協力農家の確保を図る	おもてなし	実施区画数	区画	目標	520	520	520
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	農業オリエンテーリング事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	産業経済課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和63年度	根拠法令	葛飾区地域産業活性化プラン
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者・NPO団体との協働
対象者	一般区民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>家族でオリエンテーリング形式で農地を回りながら野菜を収穫することにより、農業や農家とのふれあいを楽しみ、葛飾区における都市農業の現状や農地の役割を知ってもらう。</p> <p>【募集方法】 広報かつしか・区HPで募集し、往復はがき又は電子申請で受け付ける。 【参加費】 1家族 1,500円 【実施時期】 11月の日曜又は祝日（1日間） 【内 容】 2時間程度で、地図をたよりに農園をまわり野菜を収穫する。 【主な収穫物】 かぶ、小松菜、ほうれんそう 【運営方法】 J A東京スマイルとの共催（会場設営、農地選定等はJ A東京スマイルに委託）</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1403	産業に対する区民の理解を深め、産業と調和のとれた地域をつくります
事務事業目的	農地を回りながら野菜を収穫し、都市農業の現状や都市農地の役割への区民の理解を深める。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加家族数	—	家族	目標	70	75	80
			実績	70	77	56
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
申込数	—	件	目標	70	75	80
			実績	92	77	62
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	116	84	
	一般財源 (a)	千円	1,128	1,150	
支出	直接事業費 (b)	千円	454	454	
	委託料	千円	454	454	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	790	780
		人件費	千円	790	780
		人	0.10	0.10	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	80	95	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	80	95	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	1,324	1,329	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数（参加家族数）	
実績数値 (g)	件	77	56
単位あたり区単コスト (a/g)	円	14,649	20,536
単位あたりコスト (f/g)	円	17,195	23,732

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	農業オリエンテーリング事業	担当部	地域振興部
		担当課	産業経済課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>平成25年度は、区内農家4戸の協力により11月に実施。56家族219人が4農園をオリエンテーリング形式でまわり、秋野菜4品目の農作物の収穫を楽しんだ。都市住民にとり農業に親しむ数少ない機会として、リピーターも多い。農家にとっても、都市農地の多面的な役割を区民にアピールするための手段として有益である。</p>	
今後の方向性	改善	<p>少子化などにより申込家族数は過去3年で70前後であり、参加可能数(120)を下回っている。1家族当たり参加できる子どもの数の緩和などを図ったが、歯止めがかかっていない。今後は、産業フェアなどイベント会場でのチラシ配布を行うなど、事業PRを強化するとともに、これまでの親子参加の要件を外し、夫婦のみや友人同士でも参加できるようにして、参加者の増を図っていく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加家族数	—	家族	目標	80	80	80
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加者を増やすため、広報紙・HP・FB・産業情報誌・FMで事業PRを行う	おもてなし	広報紙・HP・FB・産業情報誌・FMでの周知件数	件	目標	14	14	14
参加者を増やすため、事業周知チラシを区施設や産業フェア等イベント会場配布する	おもてなし	チラシ配布数	枚	目標	500	500	500
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	産業フェア事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	商工振興課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和60年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	民間事業者・NPO団体との協働
対象者	区民・区内中小企業		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<ol style="list-style-type: none"> 1 内容 区内産品をPRするため、展示・実演・販売等を行う 2 開催日 (1) 前半 工業・商業・観光展 10月(第3土曜日を含む金～日曜日) (2) 後半 農業・伝統産業展 10月(第4土曜日を含む金～日曜日) 3 場所 テクノプラザかつしか(前後半)、城東地域中小企業振興センター(前半のみ) 4 運営方法 出展企業・団体などで構成する実行委員会・運営委員会により企画・運営 		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1403	産業に対する区民の理解を深め、産業と調和のとれた地域をつくります
事務事業目的	大人から子どもまで幅広い区民をはじめとする地域住民の方に、商業・工業・農業・伝統産業・観光などの区内産業に対する理解を深める。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
来場者数	産業フェア実施期間(6日間)の延べ来場者数	人	目標	75,000	75,000	85,000
			実績	87,000	94,000	77,000
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
出展社数	産業フェア実施期間(6日間)の出展社数	社	目標	510	510	510
			実績	503	477	468
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	36,822	39,208
支出	直接事業費 (b)	千円	27,992	28,883
	報償費	千円	150	0
	消耗品費	千円	91	284
	印刷製本費	千円	878	1,014
	食糧費	千円	75	99
	通信運搬費	千円	125	140
	広告料	千円	252	252
	筆耕翻訳料	千円	5	0
	保険料	千円	272	270
	委託料	千円	21,480	22,142
	自動車借上料	千円	1,433	1,470
	使用料及び賃借料	千円	3,231	3,212
	職員人件費 (c)	千円	8,830	10,325
	人件費	千円	8,690	10,325
		人	1.10	1.35
	再雇用職員	千円	140	0
		人	0.05	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	880	0
	減価償却費	千円	0	0
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	880	0	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	37,702	39,208

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数	
実績数値 (g)	人	94,000	77,000
単位あたり区単コスト (a/g)	円	392	509
単位あたりコスト (f/g)	円	401	509

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	産業フェア事業	担当部	地域振興部
		担当課	商工振興課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>来場実績は、天候に左右されるところが大きいですが、リピーターの割合が高いこともあり毎年安定している。平成24年度から、前面道路を通行止めとした模擬商店街の演出、葛飾ブランド「町工場物語」「おもちゃアイデアコンクール」の表彰式をステージイベントの演目として実施し、多くの来場者に受賞を披露する機会として活用を図っている。</p>	
今後の方向性	改善	<p>会場スペース上出展規模には制約があるが、新たな試みを取り入れていこう 出展団体に働きかけて、内容の充実に取り組んでいく。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
来場者数	産業フェア実施期間（6日間）の延べ来場者数	千人	目標	70	90	90
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
産業フェアを魅力あるイベントとし、来場者の増加を図る	おもてなし	産業フェア実施期間（6日間）の出展社数	社	目標	510	510	510
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	金魚展示場管理運営	重点評価区分	重点	担当部	都市整備部
				担当課	公園課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成10年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	区単独（委託）
対象者	制限なし		
裁量区分	あり		
実施内容 （事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等）	<p>【事業概要】 平成8年の東京都水産試験場水元本場移転計画に伴い、地元住民等から水郷景観の保全や金魚、オニバス等の保護育成の請願が出され、区議会において全会一致で採択された。これを受け、区から東京都に働きかけた結果、平成10年度より葛飾区が水産試験場跡地施設を借り受け、金魚を飼育、展示するに至った。</p> <p>【活動内容】</p> <p>1) 委託業務 ①金魚の飼育管理及び繁殖 ②展示場内施設維持管理及び清掃 ③見学者等の安全管理 ④金魚展示場ボランティアへの支援 ⑤区事業への協力</p> <p>2) 実施事業 ①金魚配布（H21年度開始 対象：区内公私立幼稚園・保育園及び小学校で希望する施設 配布実績：H21年度17団体271匹、H22年度23団体233匹、H23年度未実施、H24年度24団体224匹、H25年度21団体199匹） ②金魚すくい（H21年度開始 実施回数 1回/年 開催結果：参加者数H22年度480人、H23年度550人、H24年度460人、H25年度430人） ③金魚有償配布（H24年度開始 実施回数 1回/年 開催結果：購入者数H24年度153人、H25年度166人）</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1501	観光資源を活かした賑わいのあるまちにします
事務事業目的	旧都立水産試験場で飼育、管理されてきた貴重な金魚を飼育することで種の保存をするとともに、展示公開することで、区民（来場者）に潤いとやすらぎを与える。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
金魚展示場来園者数	毎年30,000人を基準値とする	人	目標	30,000	30,000	30,000
			実績	26,426	24,005	22,884
金魚の有償配布	売り上げ金額	円	目標	—	315,000	315,000
			実績	—	221,100	310,000

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
金魚展示場開設日数	—	日	目標	246	246	246
			実績	246	246	246
金魚飼育数	—	匹	目標	1,200	1,500	1,500
			実績	1,280	1,700	1,260
金魚の有償配布	—	回	目標	—	1	1
			実績	—	1	1
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	8,525	8,335
支出	直接事業費 (b)	千円	6,787	6,619
	委託費	千円	5,967	5,967
	修繕料	千円	287	75
	通信運搬費	千円	0	0
	負担金 (光熱水費)	千円	513	557
	消耗品費	千円	20	20
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	1,738	1,716
	人件費	千円	1,738	1,716
		人	0.22	0.22
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
調整額 (e)	千円	176	209	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	176	209	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)		千円	8,701	8,544

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		延べ来場者数	
実績数値 (g)	人	24,005	22,884
単位あたり区単コスト (a/g)	円	355	364
単位あたりコスト (f/g)	円	362	373

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	金魚展示場管理運営	担当部	都市整備部
		担当課	公園課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>金魚展示場を多くの方に知ってもらうため、金魚すくいや金魚有償配布などイベントを開催して金魚展示場の周知を図ってきた。しかし、イベントには多くの方が参加してもらえが、金魚展示場への誘導にはつながらなかった。</p>	
今後の方向性	改善	<p>1. 金魚を水槽で観賞できるコーナーや分かり易い解説板を設置するなど展示方法を工夫していく。 2. 金魚有償販売による運営経費の確保を目指す。 3. 金魚の種の保存と販売を両立させられる数量の確保を目指す。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
金魚展示場来園者数	毎年30,000人を基準値とする	人	目標	30,000	30,000	30,000
金魚の有償配布	売り上げ金額	円	目標	315,000	315,000	315,000

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
金魚鑑賞機会の提供	おもてなし	金魚展示場開設日数	日	目標	246	246	246
金魚24種の繁殖と適切な飼育	プロセス	金魚飼育数	匹	目標	1,500	1,500	1,500
金魚飼育機会の提供	おもてなし/コスト	金魚の有償配布	回	目標	1	1	1
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	かつしかさくら祭り助成	重点評価 区分	重点	担当部	総務部
				担当課	総務課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	平成5年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	地域住民		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施 内容、手段、過去 の改善実績等)	<p>区役所さくら通りで、子どもから高齢者まで楽しく過ごす「ふれあいの場」としてイベントを実施する。</p> <p>① 日 時 4月の第1日曜日 午前11時から午後3時まで ② 場 所 立石さくら通り(葛飾区立石5-13-1区役所隣り) ③ 主催者 「かつしかさくら祭り」実行委員会 ④ 助成金 委託料(イベントショー・会場設営・ミニSL)</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策 番号	施策	1502	地域ならではのイベントにひかれ、多くの人で賑わうようにします
事務事業目的	①子どもから高齢者まで、区民に親しまれ、楽しく過ごせる催しにする。 ②区民と区内の各種団体とのコミュニケーションを深める。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加人数(概算)	—	人	目標	55,000	55,000	55,000
			実績	30,000	31,000	29,000
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
協賛団体数	—	団体	目標	48	48	48
			実績	45	48	45
模擬店出店数	—	店	目標	52	52	52
			実績	55	56	53
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	1,132	947	
支出	直接事業費 (b)	千円	974	869	
	委託料	千円	974	869	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	158	78
		人件費	千円	158	78
		人	0.02	0.01	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	16	10	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	16	10	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	1,148	957	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		参加人数(概算)	
実績数値 (g)	人	31,000	29,000
単位あたり区単コスト (a/g)	円	37	33
単位あたりコスト (f/g)	円	37	33

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	かつしかさくら祭り助成	担当部	総務部
		担当課	総務課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	地元の代表からなる「かつしかさくら祭り実行委員会」が主催し、地元企業や団体が数多く参加し定着している。また、多くの区民にも、毎年の恒例行事として定着している。	
今後の方向性	改善	
	継続	子どもたちに人気のイベントショー・ミニSLなどの展示等を継続していく。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加人数	—	人	目標	32,000	32,000	32,000
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
区民と区内の各種団体とのコミュニケーションを深める	人づくり	協賛団体数	団体	目標	48	48	48
地域住民が一日楽しく過ごせる催しにする	おもてなし	模擬店出店数	店	目標	56	56	56
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	子どもつり大会事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	観光課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和30年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	区民及び観光客		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【概要】 都立水元公園小合溜において、中学生以下を対象とした子どもつり大会を毎年1回、葛飾区子どもまつりと同時に開催する。 主 催：葛飾区・葛飾区釣友連盟・(社)葛飾区観光協会 参加費：無料 貸 竿：約250本 記念品：釣りマナー講習会を受講した者に抽選で記念品を配布</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1502	地域ならではのイベントにひかれ、多くの人で賑わうようにします
事務事業目的	子どもに正しい釣りのマナーを教え、環境美化につなげるとともに、水元地域の観光振興を図る。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
参加者数	—	人	目標	800	800	800
			実績	900	500	0
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
水元マップ配付数	—	人	目標	1,500	1,500	1,000
			実績	900	500	0
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	1,020	992
支出	直接事業費 (b)	千円	230	212
	消耗品費	千円	67	59
	食糧費	千円	18	0
	委託料	千円	129	147
	使用料及び賃借料	千円	16	6
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		職員人件費 (c)	千円	790
	人件費	千円	790	780
		人	0.10	0.10
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
	間接費 (d)	千円	0	0
	調整額 (e)	千円	80	95
	減価償却費	千円	0	0
	金利	千円	0	0
	退職給与引当	千円	80	95
	(控) コスト対象外	千円	0	0
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	1,100	1,087

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		参加者数	
実績数値 (g)	人	500	0
単位あたり区単コスト (a/g)	円	2,040	—
単位あたりコスト (f/g)	円	2,200	—

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	子どもつり大会	担当部	地域振興部
		担当課	観光課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>例年、子どもまつりと同時開催で行っている区と釣友連盟、観光協会による共催事業。参加者数は貸し竿の本数や釣りマナー講習会の収容人数が限定されることから、一定水準を推移していたが、平成25年度は荒天のため中止となった。</p> <p>「参加者が正しい釣りマナーを覚え、釣り場の環境美化の意識を持ちながら釣りを楽しんでいる。」という事務事業意図を鑑みると、観光事業というよりは環境事業といった色彩が強いが観光事業としては、イベントを通じた水元公園の魅力発信、賑わいづくりに努めている。釣友連盟との協働により、事業意図が達成されるとともに、大会当日の円滑な運営やコスト抑制につながっている。</p>	
今後の方向性	改善	
	継続	水元公園の魅力を発信する機会として、子どもつり大会の継続を図る。

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
参加者数	—	人	目標	800	800	800
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
つり大会を通して、水元公園の魅力を発信する。	おもてなし	水元マップ配布数	人	目標	1,000	1,000	1,000
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	菖蒲まつり支援事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	観光課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	—	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	区民及び観光客		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【概要】 堀切菖蒲園及び都立水元公園を中心に、6月の上旬から約20日間にわたりイベント等を実施する「葛飾菖蒲まつり」を支援する。</p> <p>■堀切かつしか菖蒲まつり運営協議会 構成団体：観光協会堀切支部、堀切自治町会連合会、堀切地域各商店街、青少年育成堀切地区委員会</p> <p>■水元公園葛飾菖蒲まつり実行委員会 構成団体：観光協会水元支部、水元自治町会連合会、水元・金町地域各商店街、青少年育成水元地区委員会</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1502	地域ならではのイベントにひかれ、多くの人で賑わうようにします
事務事業目的	葛飾区の花「花しょうぶ」にちなんだイベントを通して、区民の地域への関心や愛着を深めるとともに、区内外に「葛飾菖蒲まつり」の魅力を発信し、地域の賑わいを創出する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
来場者数	—	万人	目標	46	46	46
			実績	55	47	46
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
菖蒲まつり実施月における葛飾区観光HPアクセス件数	—	件	目標	35,000	38,000	50,000
			実績	35,228	50,394	76,698
菖蒲めぐりバス乗客数	—	人	目標	3,500	3,700	2,500
			実績	3,511	2,277	2,010
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度
収入	特定財源			
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	0	0
	一般財源 (a)	千円	14,457	14,377
支出	直接事業費 (b)	千円	12,087	12,037
	印刷製本費	千円	300	300
	広告料	千円	126	126
	委託料	千円	11,659	11,609
	使用料及び賃借料	千円	2	2
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
		千円		
	職員人件費 (c)	千円	2,370	2,340
	人件費	千円	2,370	2,340
		人	0.30	0.30
	再雇用職員	千円	0	0
		人	0.00	0.00
間接費 (d)	千円	0	0	
調整額 (e)	千円	240	285	
減価償却費	千円	0	0	
金利	千円	0	0	
退職給与引当	千円	240	285	
(控) コスト対象外	千円	0	0	
トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	14,697	14,662	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		来場者数	
実績数値 (g)	人	470,000	460,000
単位あたり区単コスト (a/g)	円	31	31
単位あたりコスト (f/g)	円	31	32

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	菖蒲まつり支援事業	担当部	地域振興部
		担当課	観光課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	<p>菖蒲まつりについては例年、マスコミ等に取り上げられることも多く、梅雨時で天候の影響があるものの、例年、一定して多くの来場者を区内外からの集め、葛飾区を広くPRする機会となっている。おまつりの企画・運営は堀切・水元両地域の地元の方々が実行委員会を組織し、自主的・主体的に行っている。周年事業や平成22年度からは堀切菖蒲園において夜間のライトアップ事業を実施するなど地元の方々の創意工夫により、おまつりの活性化が図られ、おまつり会場は例年多くの観光客で賑わい、地域の活性化に寄与している。コスト面においては、地元の方々の様々な工夫により、コストの抑制に努めている。</p>	
今後の方向性	改善	<p>地元の実行委員会による自主的・主体的な取組であることから、地元の意向や要望を尊重した側面的支援を継続するとともに、一層のPR強化に努める。</p>
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
来場者数	—	万人	目標	46	46	46
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
菖蒲まつりを通して、葛飾区の魅力を発信する。	おもてなし	雑誌等への掲載数	件	目標	11	11	11
観光客の回遊性を向上する。	おもてなし	菖蒲めぐりバス運行本数(1日あたり)	本	目標	15	15	15
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。

平成26年度事務事業評価表（基本）

事務事業名	葛飾納涼花火大会事業	重点評価区分	重点	担当部	地域振興部
				担当課	観光課

基本情報

1 事務事業の概要

開始年度	昭和48年度	根拠法令	—
性質区分	啓発・イベント	実施形態	地域との協働
対象者	区民及び観光客		
裁量区分	あり		
実施内容 (事務事業の実施内容、手段、過去の改善実績等)	<p>【概要】 7月下旬の火曜日に、柴又の江戸川河川敷において、葛飾区・(社)葛飾区観光協会の2者の主催で、実行委員会を組織し花火大会を実施する。</p> <p>【活動内容等】 ①打上花火数(スターマイン)約12,000発を1時間程度で打ち上げる。 ②実行委員会が協賛金を募り、有料指定席の販売を行う。 ③実行委員会事務局は区観光課内に設置し、区職員が事務局業務を担当している。 ④警察、消防、区、観光協会、自治会、委託警備等約1,450人(平成25年度実績)が大会従事にあたっている。</p>		

2 施策及び事務事業目的

施策番号	施策	1502	地域ならではのイベントにひかれ、多くの人で賑わうようにします
事務事業目的	区民の観光レクリエーションと葛飾区の観光振興を目的として実施する。		

実績情報

1 成果指標の達成状況

成果指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
観客数	—	万人	目標	39	39	58
			実績	55	58	35
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

2 活動指標の達成状況

活動指標	指標の根拠	単位	区分	23年度	24年度	25年度
花火大会実施月における葛飾区観光HPアクセス件数	—	件	目標	23,000	28,000	30,000
			実績	23,419	30,835	62,685
有料指定席販売実績数/有料指定席販売数×100	—	%	目標	100	100	100
			実績	100	100	100
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—
—	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	—

3 コスト内訳（決算）

項目		単位	24年度	25年度	
収入	特定財源				
	国庫支出金	千円	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	
	その他	千円	0	0	
	一般財源 (a)	千円	41,571	11,423	
支出	直接事業費 (b)	千円	33,671	3,623	
	委託料	千円	12,671	0	
	負担金	千円	21,000	3,623	
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		職員人件費 (c)	千円	7,900	7,800
		人件費	千円	7,900	7,800
		人	1.00	1.00	
	再雇用職員	千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	800	950	
	減価償却費	千円	0	0	
	金利	千円	0	0	
	退職給与引当	千円	800	950	
	(控) コスト対象外	千円	0	0	
	トータルコスト (f) (b+c+d+e)	千円	42,371	12,373	

4 単位あたりコスト

項目	単位	24年度	25年度
単位の定義		観客数	
実績数値 (g)	人	580,000	350,000
単位あたり区単コスト (a/g)	円	72	33
単位あたりコスト (f/g)	円	73	35

平成26年度事務事業評価表（重点評価）

事務事業名	葛飾納涼花火大会事業	担当部	地域振興部
		担当課	観光課

過年度の実績状況の評価と今後の方向性

実績状況の評価	区内で実施するイベントとしては規模や観客動員数などにおいて、最大級を誇るイベントとして定着している。平成25年度は打上げ直前で大会中止となったが、30万人以上の観客を集めた。東日本大震災が発生した平成23年度の大会実施により、大会の知名度が向上し、観客数も増加傾向にある。雑誌などのマスコミや各種情報媒体にも多く取り上げられると共にプログラムにも観光案内を掲載することで、葛飾区を区内外に広くPRする効果にもつながっている。コスト面においては、実行委員会を組織して実施するというメリットを活かし、協賛金収入の確保、有料指定席の販売に努め、区の財政負担増の抑制に努めている。	
今後の方向性	改善	今後も協賛者収入、有料指定席販売収入などの自主財源確保に努めるとともに、花火大会の企画・運営内容の充実を図るなどの工夫により魅力ある花火大会として、葛飾区の観光PRに取り組んでいく。
	継続	

「今後の方向性」に基づく取組内容

1 今後の成果指標の目標値

成果指標	指標の根拠・計算式など	単位	区分	26年度	27年度	28年度
観客数	—	万人	目標	58	58	58
—	—	—	目標	—	—	—

2 今後の活動目標及び活動指標の目標値

活動目標	視点	活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度
花火大会を通して、葛飾区の魅力を発信する。	おもてなし	ポスター配付数	枚	目標	900	900	900
自主財源の確保に努める。	コスト	有料指定席販売実績数 ／有料指定席販売数× 100	%	目標	100	100	100
—	—	—	—	目標	—	—	—
—	—	—	—	目標	—	—	—

このページは白紙です。